



先家  
花

詩歌俳

年賀集  
五

P  
542  
1

道通文庫  
文庫6  
2060  
1





夫入有三富曰壽曰財曰技且雖有  
彭聃之齡離婁之巧輸之技而無陶  
朱拈頰之富何能大成乎哉所欲  
友有一于此失二于彼嗚呼難三富  
矣伊豫國杜器翁家富齡富傍  
嗜和歌喫茶插花之技文化壬申



之歲虹器翁六十一旬之令辰門人  
作一小冊名曰年賀集蓋喫茶掃  
花者我方愛玩而達其妙者數  
人至和歌之技自古窮其奧者僅  
已今也翁三者焉可謂畸人余閱  
斯一小冊起絕乎古人之者間有之壹

諸中類亦似可惜步依顯善詩  
應同志之需云亦昌平之一奇也遊  
序而興焉

文化癸酉之歲

從三位具實識





清幽正三位勳解由長官長親卿

其月翁の六十の壽一

乃の秋の年能く海の秋の年六十の秋の秋の秋

岩倉從三位具選卿

おさ

毎らば秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋

何れは海の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋  
ら秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋  
秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋  
ほ秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋  
—秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋  
子秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋  
の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋  
お秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋





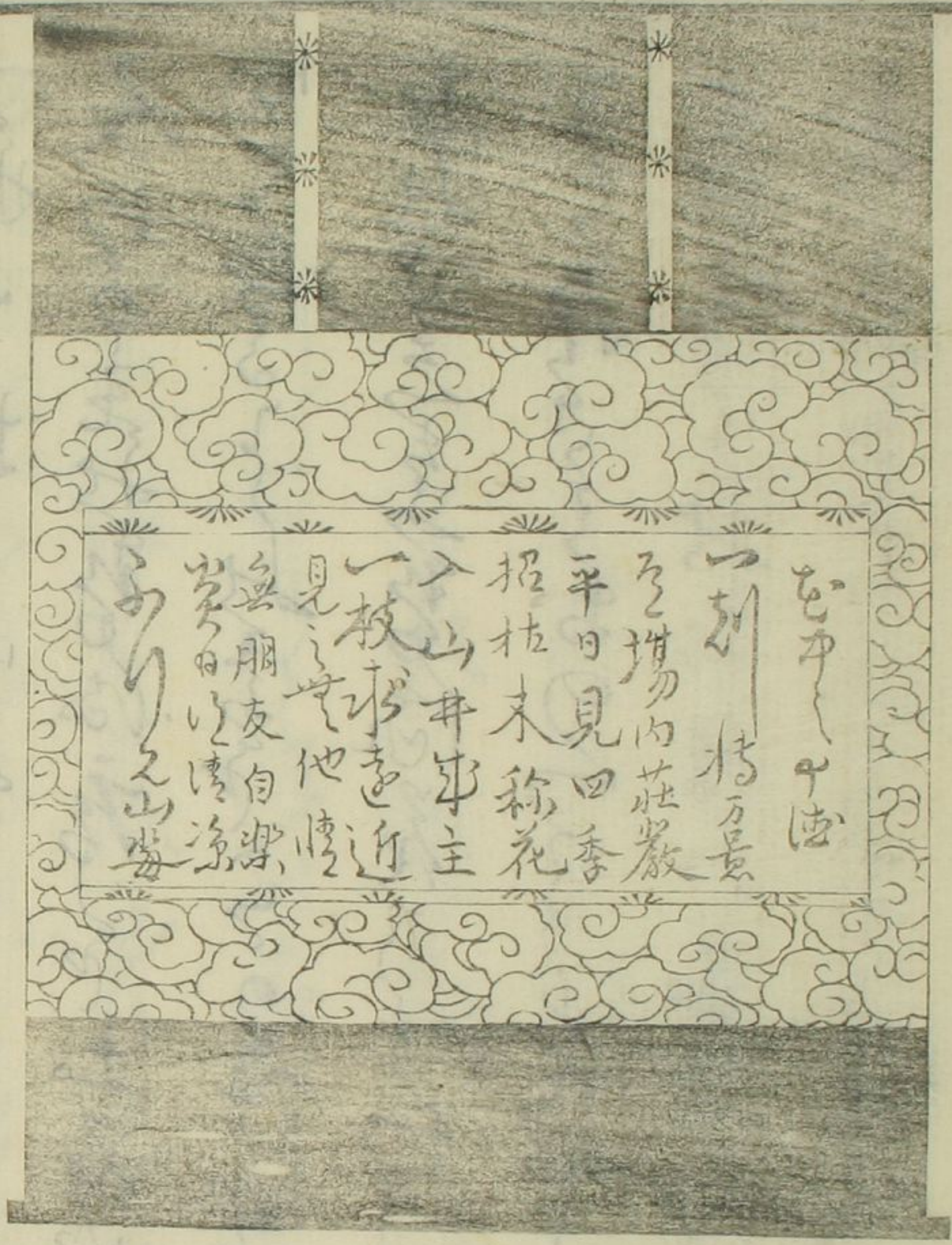






近衛信尹公筆

賀宴席上



を中へし  
一刻 持万景  
そ増勿内莊嚴  
平日見四季  
招枯末稱花  
入山井事主  
一枝水意近  
見之他情  
無朋友自樂  
空白の清涼  
あり之山家

松  
梅  
竹



笑月齋 瓦器

六十の春をひくし

まろろり又も世廿一年心より

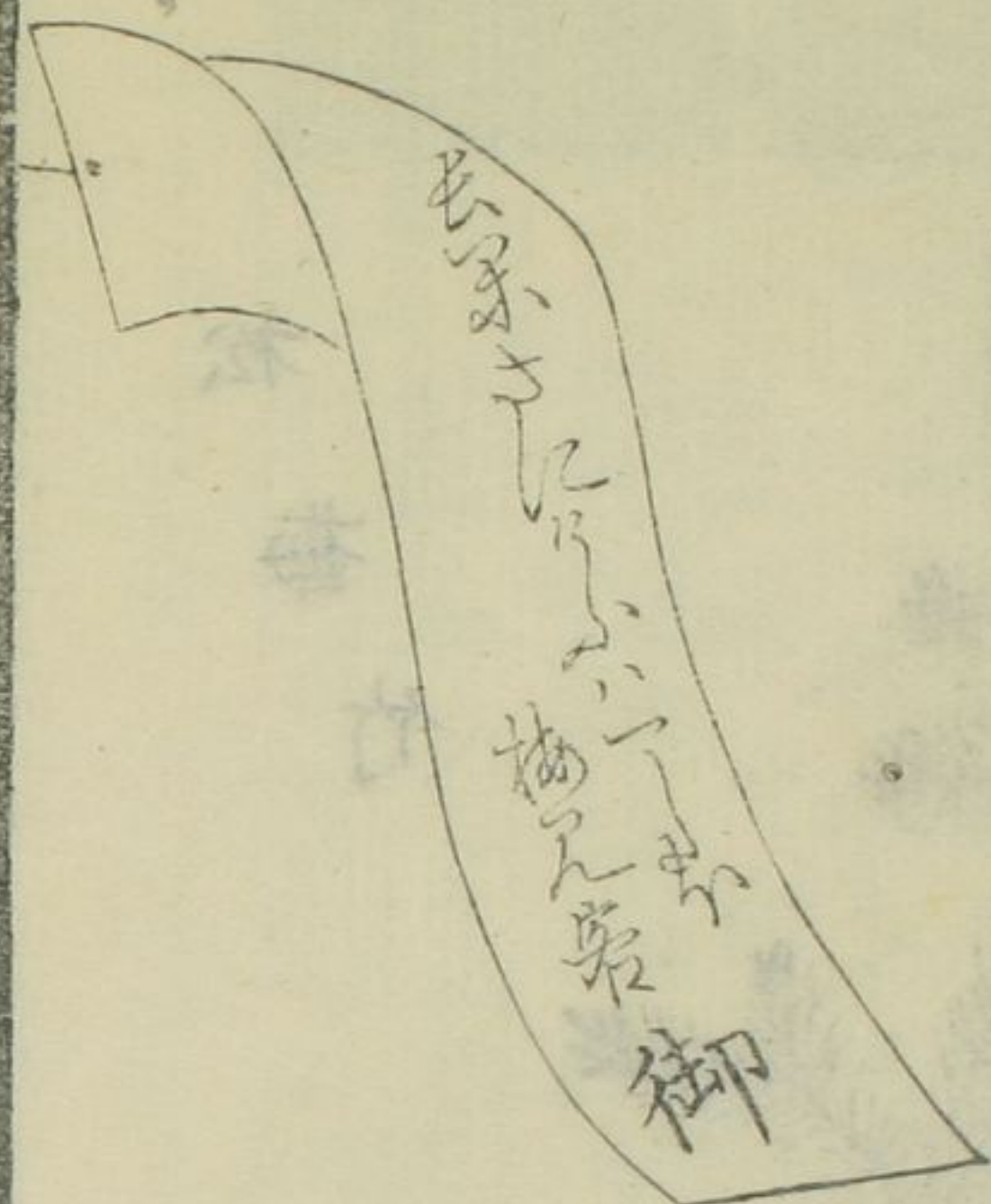
年上三



白梅  
添紅梅



水仙



吾伽羅木銘空蟬

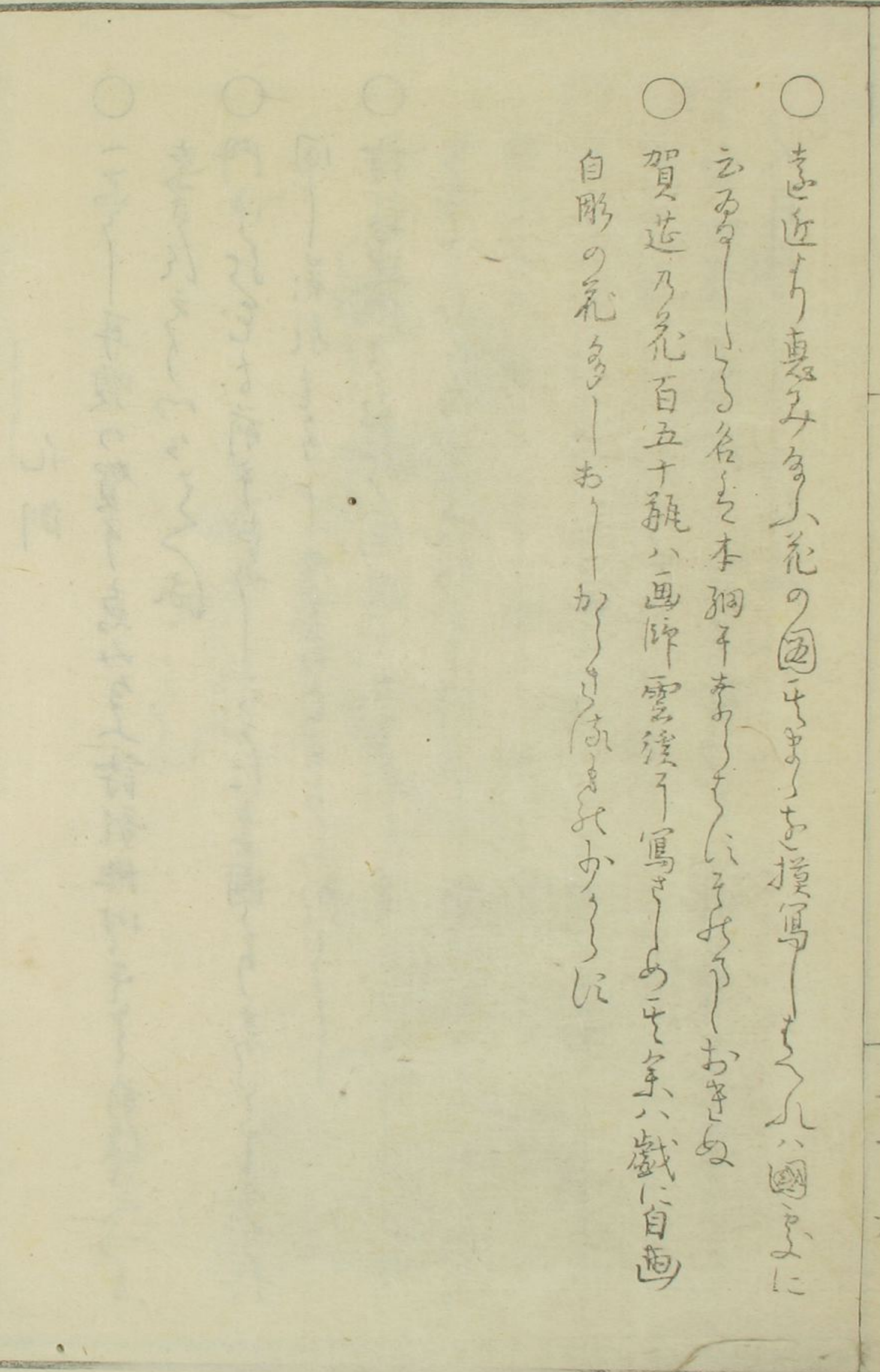
蒙御意  
御役屋御之



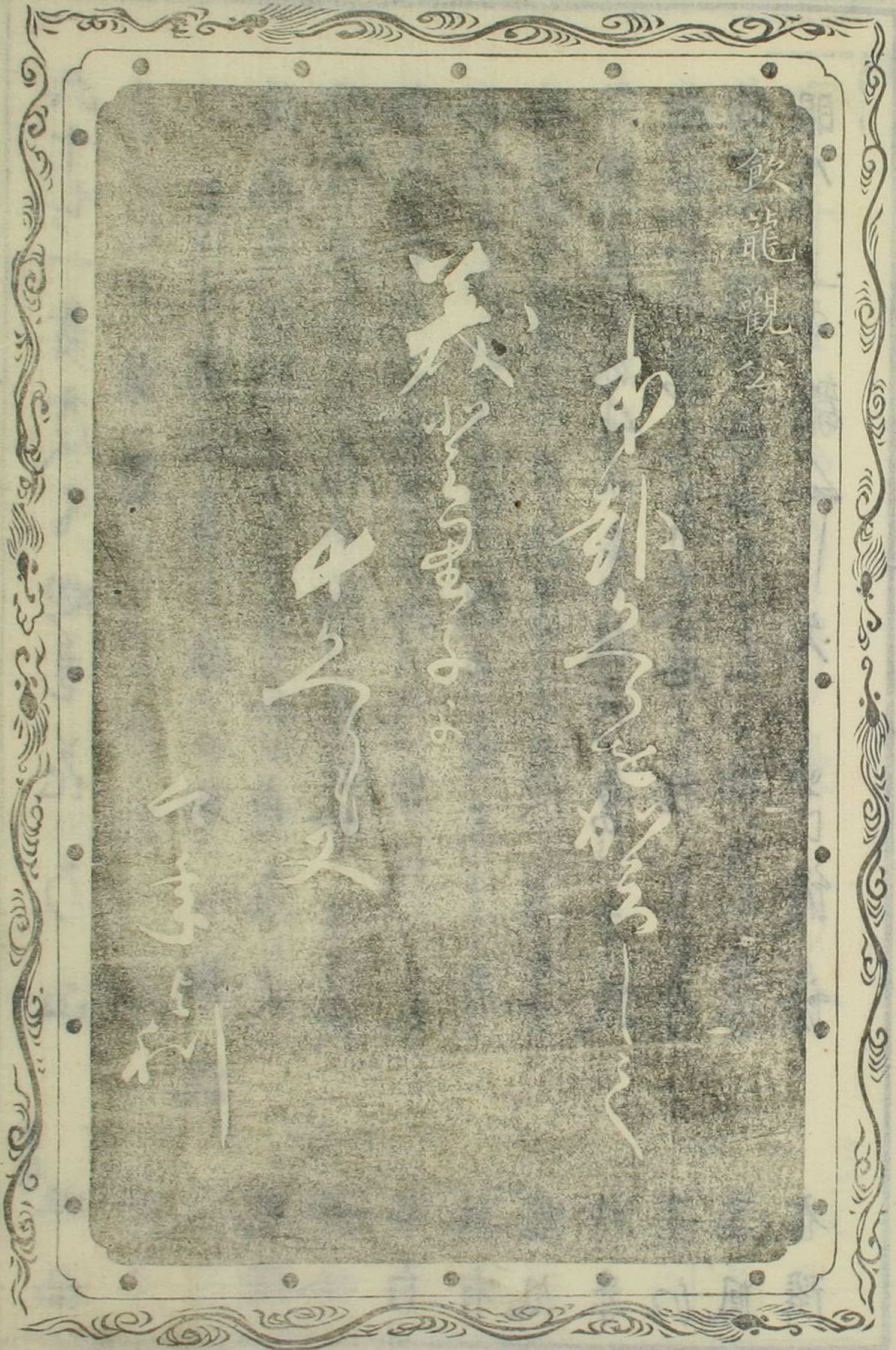




○ 喜近より喜み多し花の園にまゝお模写ししるの園に  
 云あるしるる名を本御子ありしるるおきぬ  
 ○ 賀造乃花百五十種ハ画師雲後子寫ししるる余ハ戯に自画  
 自彫の花多しおしるるおきぬ



我謹模写



飲龍觀

中野之

美

又

小

11



六十ち一袋度も廻る花乃山

通題

寄。花。墓。松。竹。梅。祝

活花乃山 昔々々々 寿老人  
山 昔々々々 花不物 昔々々々  
や 昔々々々 八長子 日押 乃歩 乃歩  
昔々々々 昔々々々 松の若 昔々々々  
此君も直ふのひま 鹿 乃歩  
一昨年 竹 林 乃厚 乃厚  
楯穴 痛 居 墓 旭 乃歩  
雨 乃歩 乃歩 乃歩 乃歩 乃歩  
眼乃上の 鶴 乃 久 乃 乃 乃 乃

吐仙

寛浦 吐吟 已白 孤有 媒風 呼来 至江 子鳳 有隣

やと千とを松も秀々々々 峰 乃春  
美案。櫻行 居 乃 乃 松 の 宿  
こはつ 曳 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
春 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
人 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
松 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
年 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
羽 二 重 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

十六 横 儒 屋 鳥 寄 例 升 六 蘭 風 直 海 魚 眼 鵞 雪 百 嬰 福 茶 蟻 堂 維 石



縁乃吉田なる虹器大人の縁小花を巻く——其の縁も  
殆芳——久きこと今も——九辰結智を越つて後——  
中きく由世なる時を待つにわたり——

あや免乃日松の心も出くれば  
竹梅の日うらむ年——西日如  
赤穂うらな喜ハぬ心もわ。戎  
松よりぬ所くさぬあり去乃自  
梅片もや——ぬよきハ啼く子鳥

祝盤三友に題——

松柱竹乃むさ——や梅の花  
齋尼乳ハいふかゆ——や耳の穴  
松竹結青之にちききき菜可なり

三津人

公路

豊郷

星寿

東堤

梅國

梅價

井目

杉屋幼兵衛おのの皮付した梅を巻くは縁  
おのの作り携り来るその慶中に  
六十を花結さうりや——長 寿 鐘  
二の習りにハ着——梅——

寿七十余歳

虹器

其くく千代お。春さく免むきか心原  
朝ちさ里かひなくあり——竹の中  
や——あや——三十九甲よ花乃山  
古乃かえ名州——よ志む日小兩年——  
梅白ふ六そら乃袖のあうさ——うか  
耳順ふ鳥のうををけ——  
鈴風にう二きもや——寿松乃花

十二六

五出

一峰

寿松

南浦

外海尼

蕉里

其鳥



桃  
柳



茂松亭  
藤公

風さくもかすむ中あり 生乃松  
 なるもこしは 君百子とぞ  
 六田こゑき いろく 花乃 冥深き  
 俳諧之連歌  
 幾春の竹 けしとん乃 悉以 次弟  
 子代をきいえつる 存の 子雀  
 霞くむ 座もは 合中 物い  
 物 毎ふふふ 南きし人あり  
 何さあそびも 漏る あり 月の影  
 猶乃 後 ありに あり 豊年  
 ちけふき 孫子 あり 連く 神 指  
 亀の尾 長く 提 中 着  
 下 畧

吐川  
 素鮮  
 淇流  
 而外  
 釣外  
 猪洗  
 淇園  
 銀牙  
 野棠  
 洞石  
 京都  
 十六  
 麦友



藤

無  
名  
山



栞

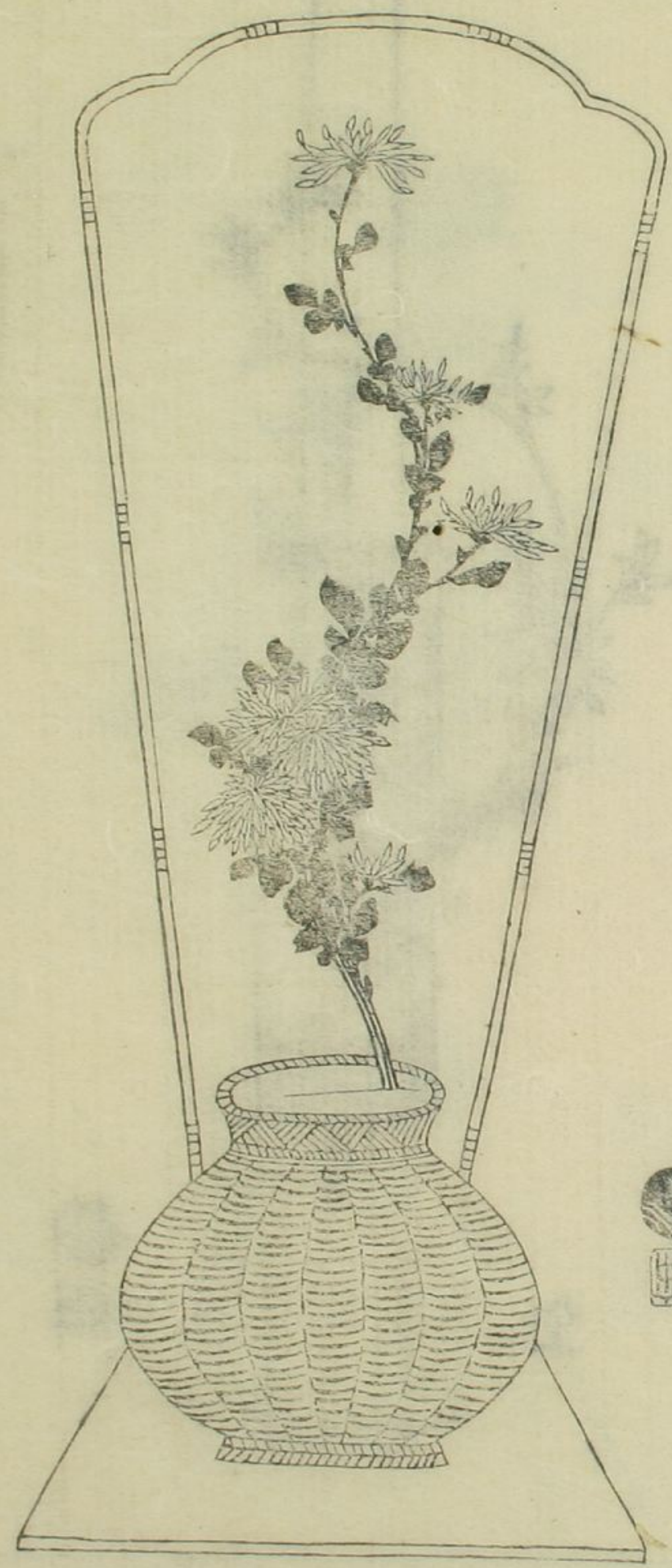
つ  
え  
き

五  
粒  
齋





白大輪



五粒齋



梅水仙



全

全



人參花

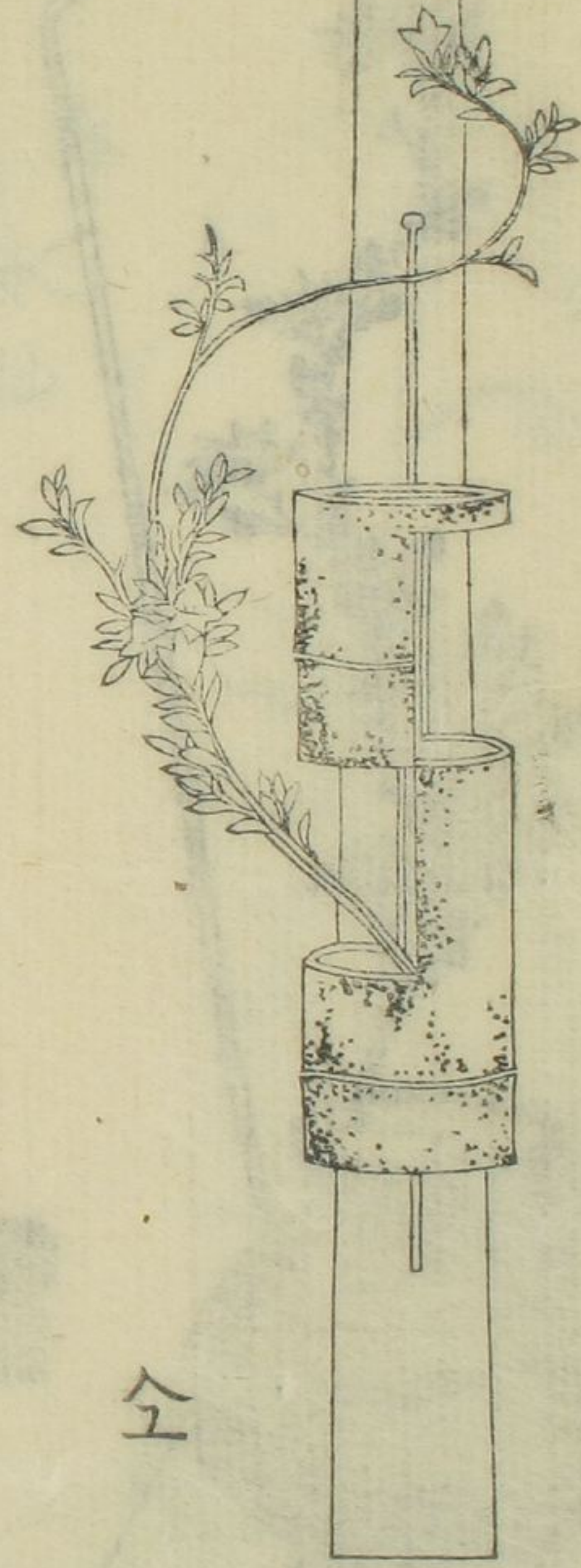
ゆきのま



閑樹齋



フー



全







風あるをよきし



入る

三十三





喚ろんと  
 蝶乃粉のつえ  
 用とん可羅

全



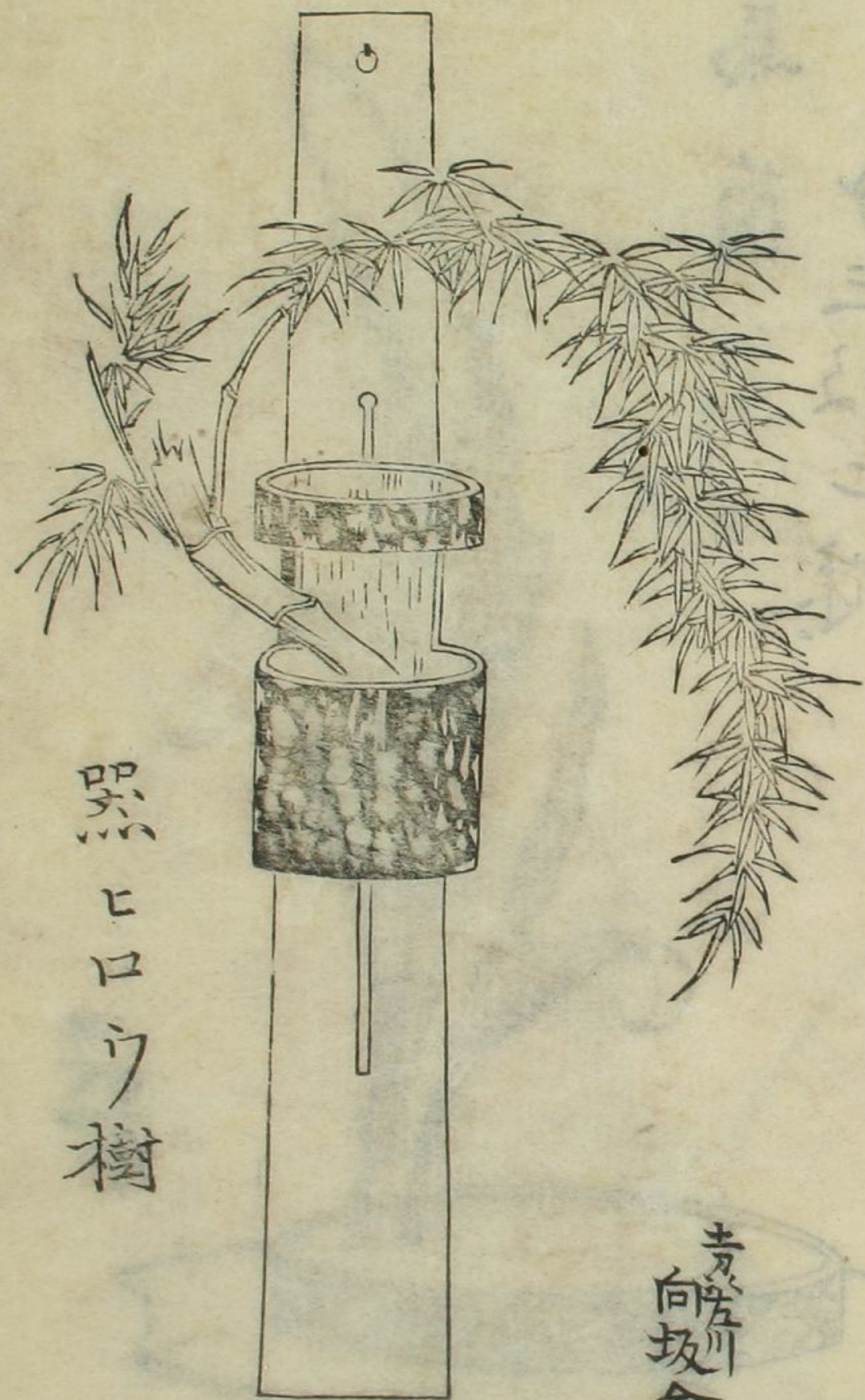
せんま  
 石竹

滄浪亭



全





黒口ノ樹

孟宗竹

寺  
向坂金糸

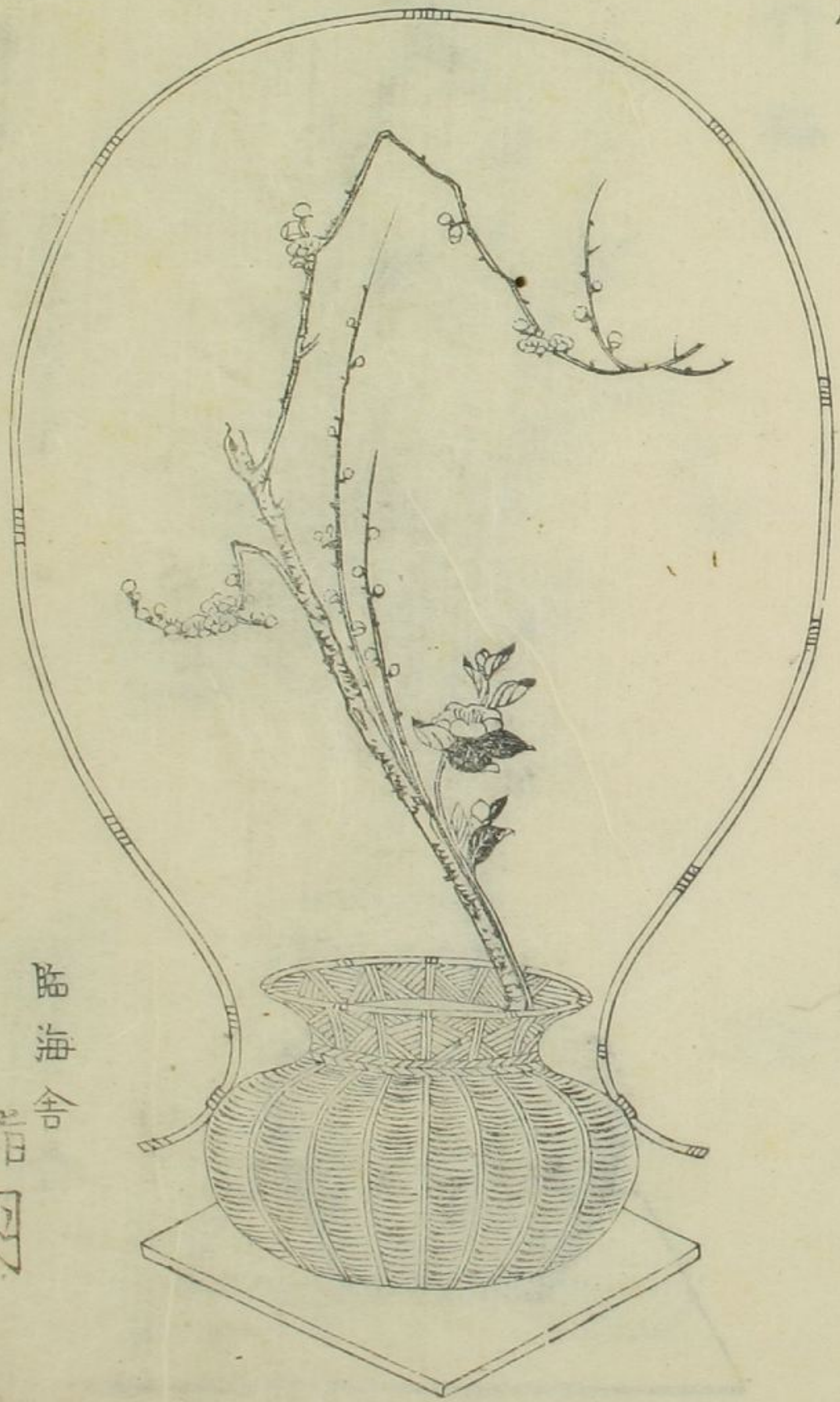


柳栂

全



梅  
椿



臨海舍  
指月

馬  
蘭

十三枝二株



井  
里山  
外



松竹梅



全

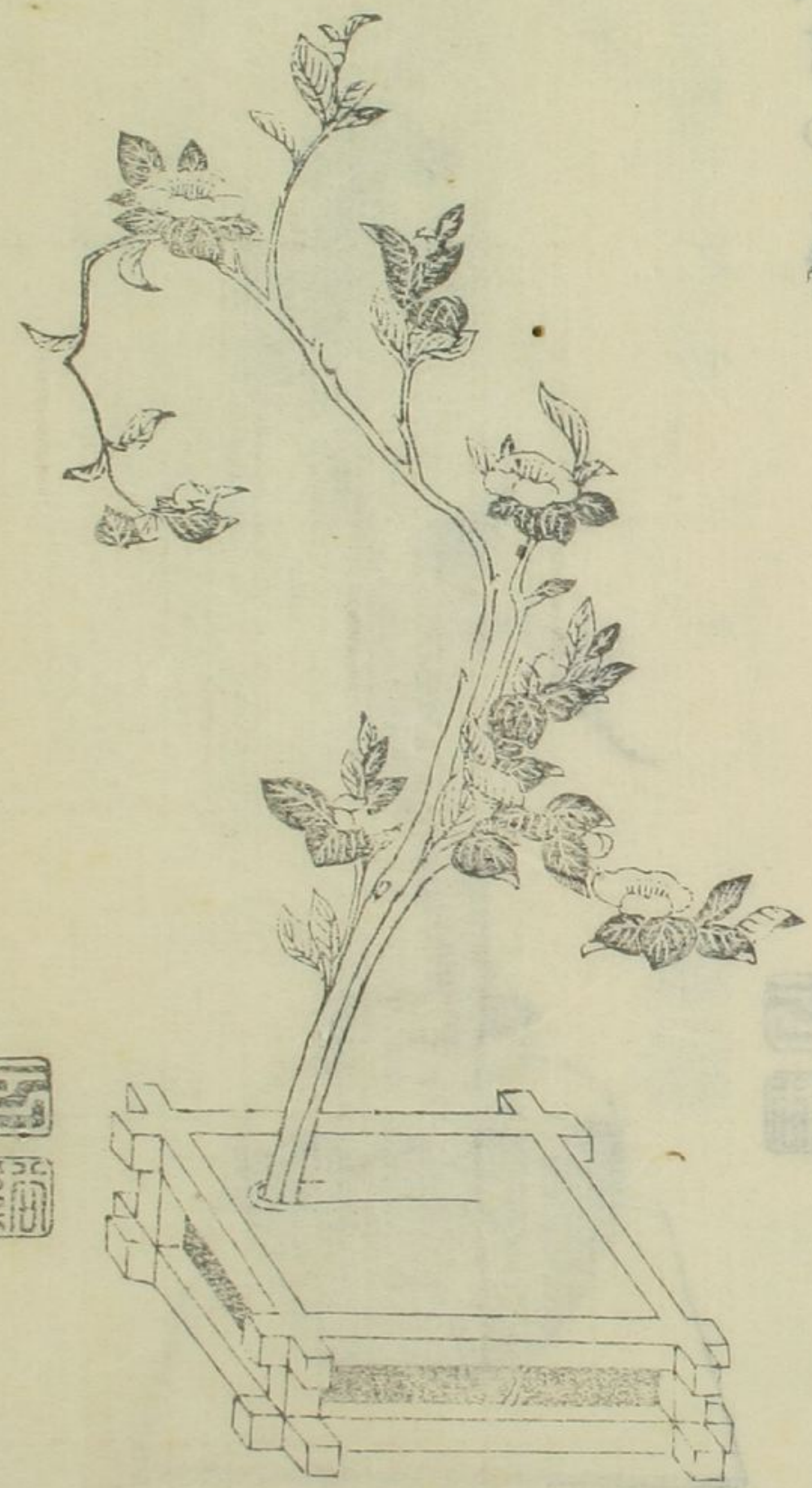
黄白大輪

赤小きく



全





つとぎい赤

樋口壺中自刻

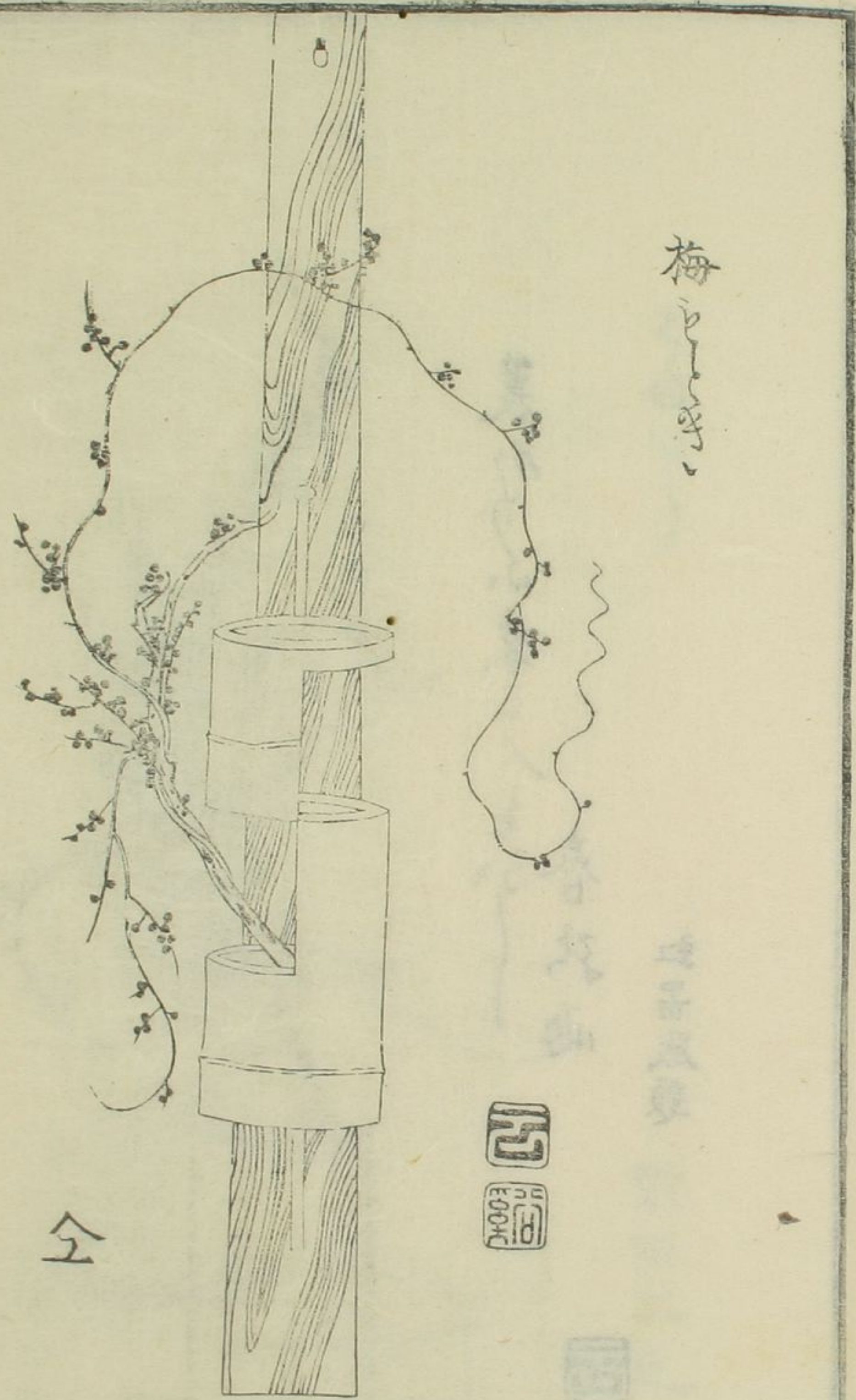
枚



全







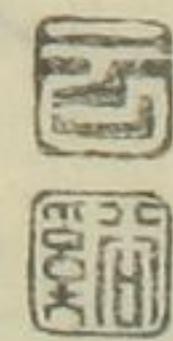
梅

全



菊

全



梅  
菊  
一  
六





七曲(一)

柴田不之



八曲(二)

簾かり小東の人七曲

春の雨

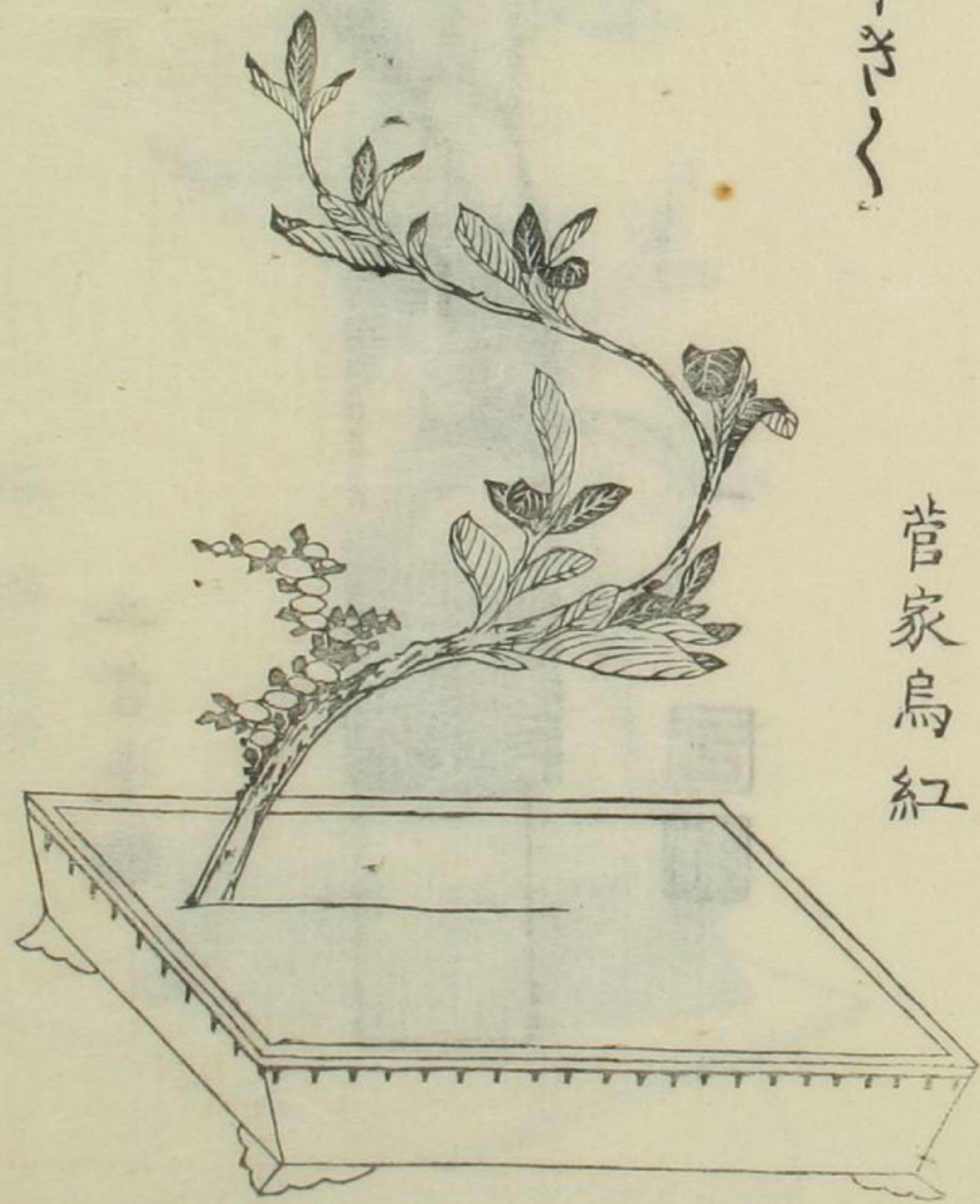
虹岳威題

全





枇杷  
赤中きく



菅家烏紅

山崎  
海見  
夕日歌

不美成類



二宮千頃



まゆみ



林  
栢  
雨

まゆ  
み



二  
宮  
半  
輪







南天  
黄小きく

藤田清耳

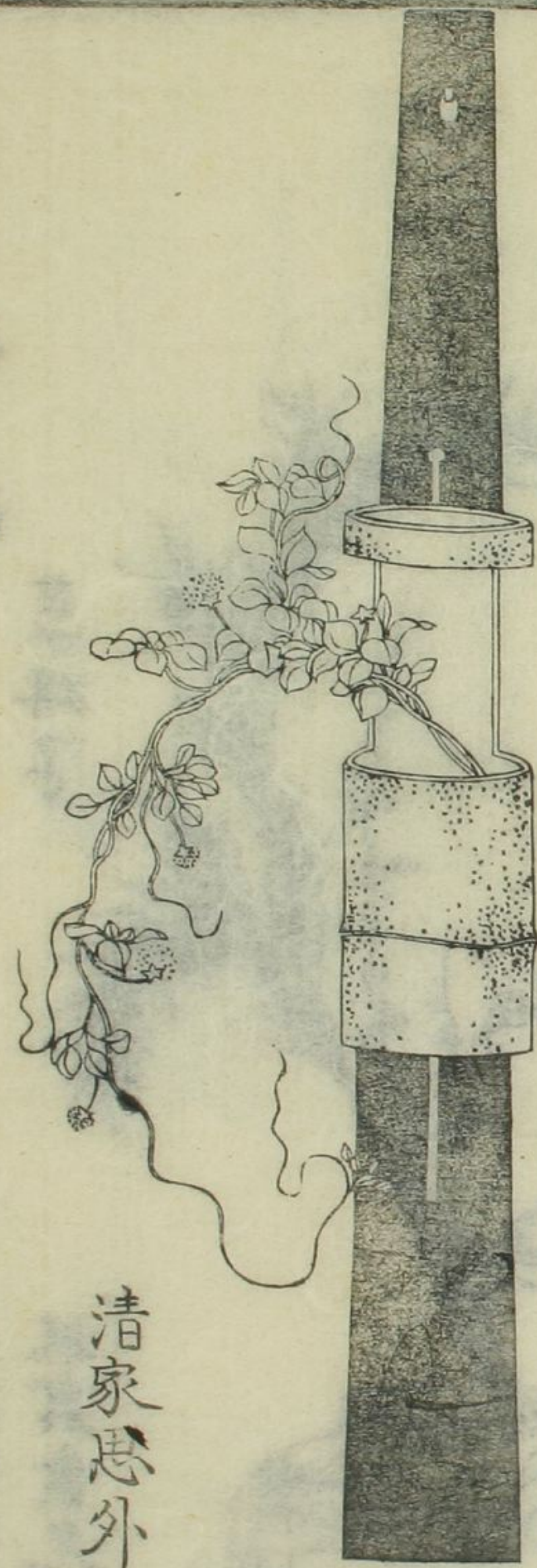


白大輪  
黄小きく

全

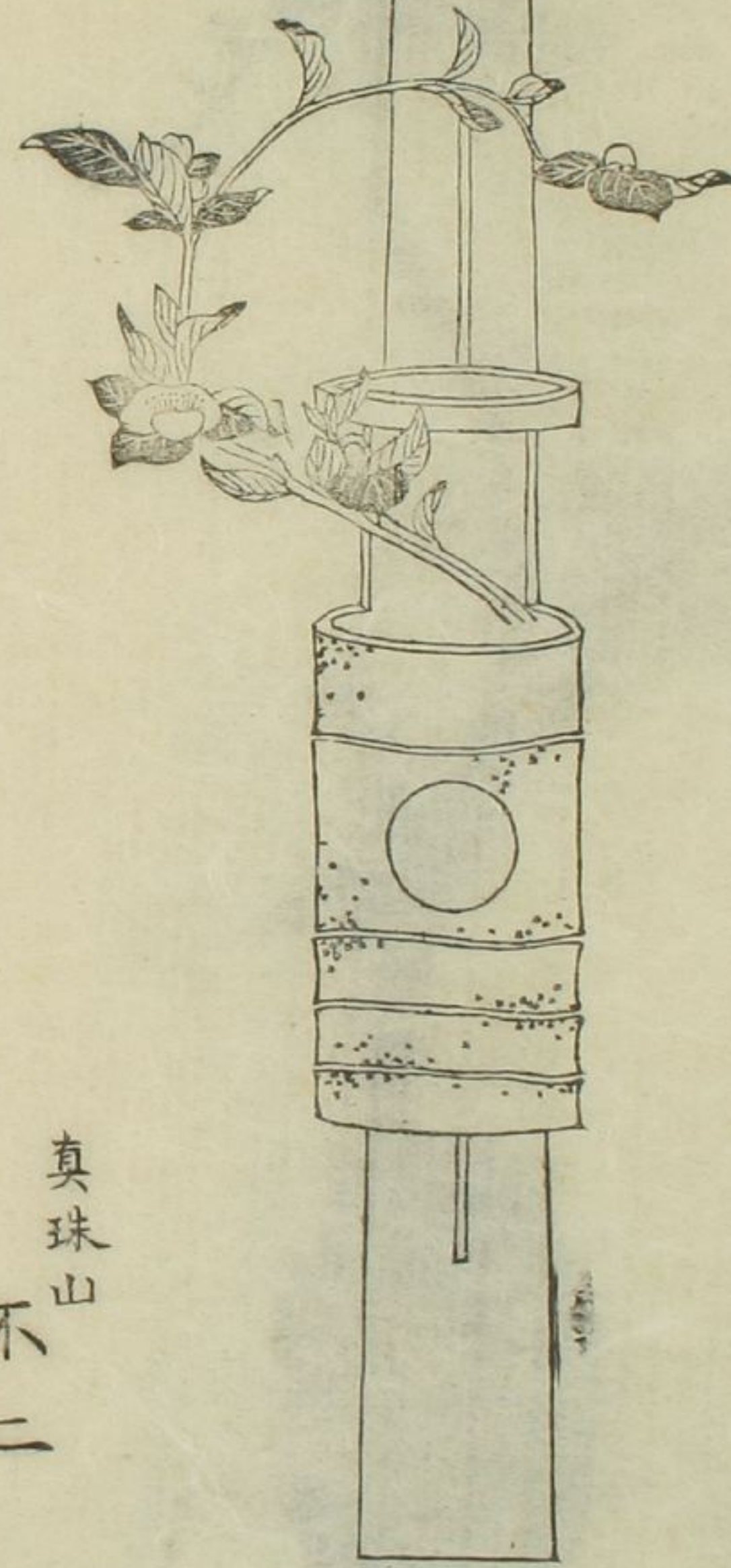
一  
年  
上  
下  
三





烏蘇母

清家思外



椿

真珠山  
不二

全  
十  
四



毛刺

水

うさぎの流

芭蕉うさぎ

鶯成題

毛刺桂子



竹梅

菫梅子

米倉素兄



竹梅



ふくろ  
花菖蒲



西村雅屋

若竹や藪より上の

燭斗



赤松里眼

如月殿積



卷之六





うねむ  
 葉きく

曾我圭月



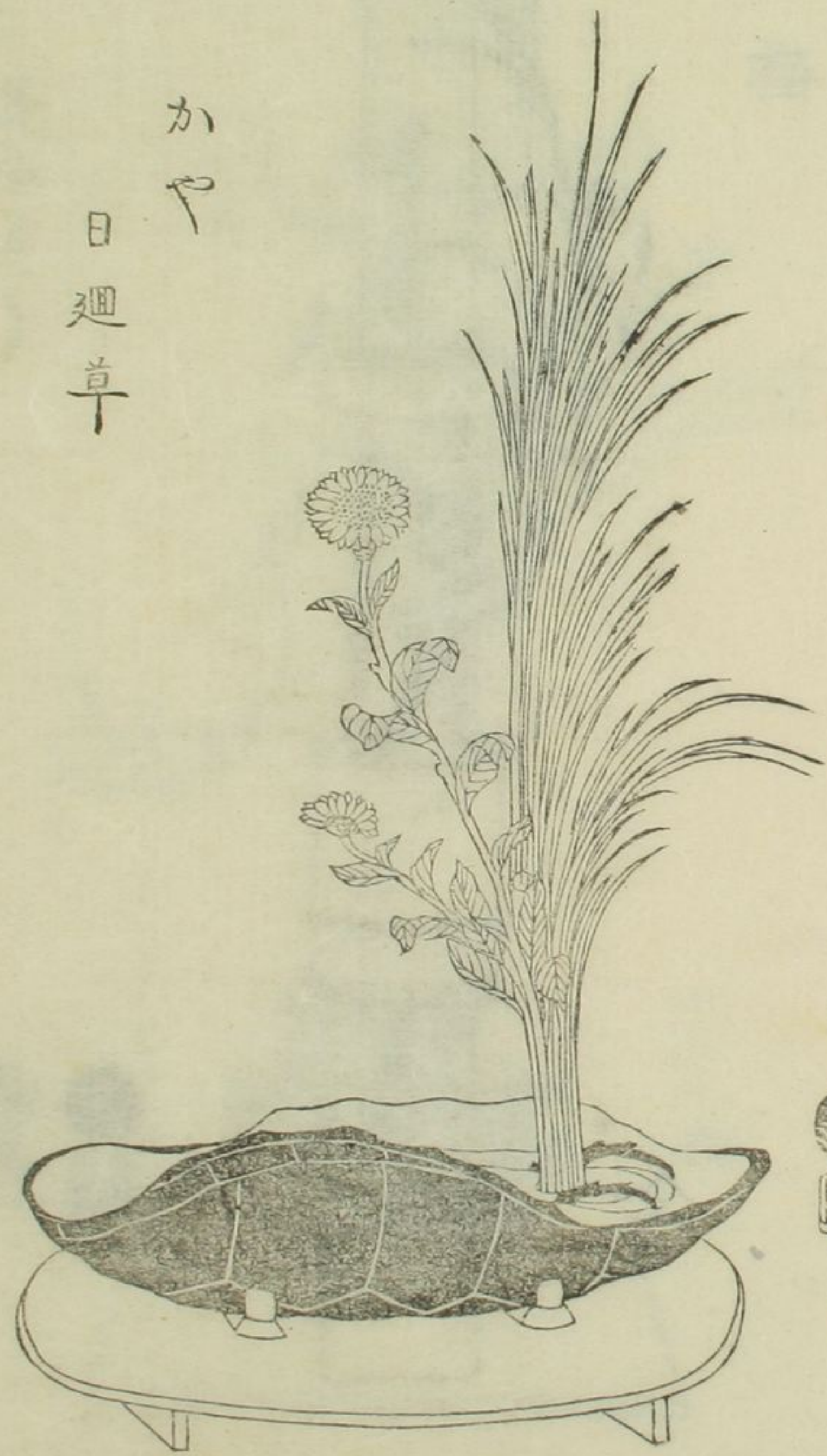
批  
 杷

全

三十一



かや  
日廻草



秋田雪光

三  
二  
六  
九

い  
な  
ひ

銭葵



赤松勢凡

三  
二  
六  
九



梅



全

芒

赤小ぎく

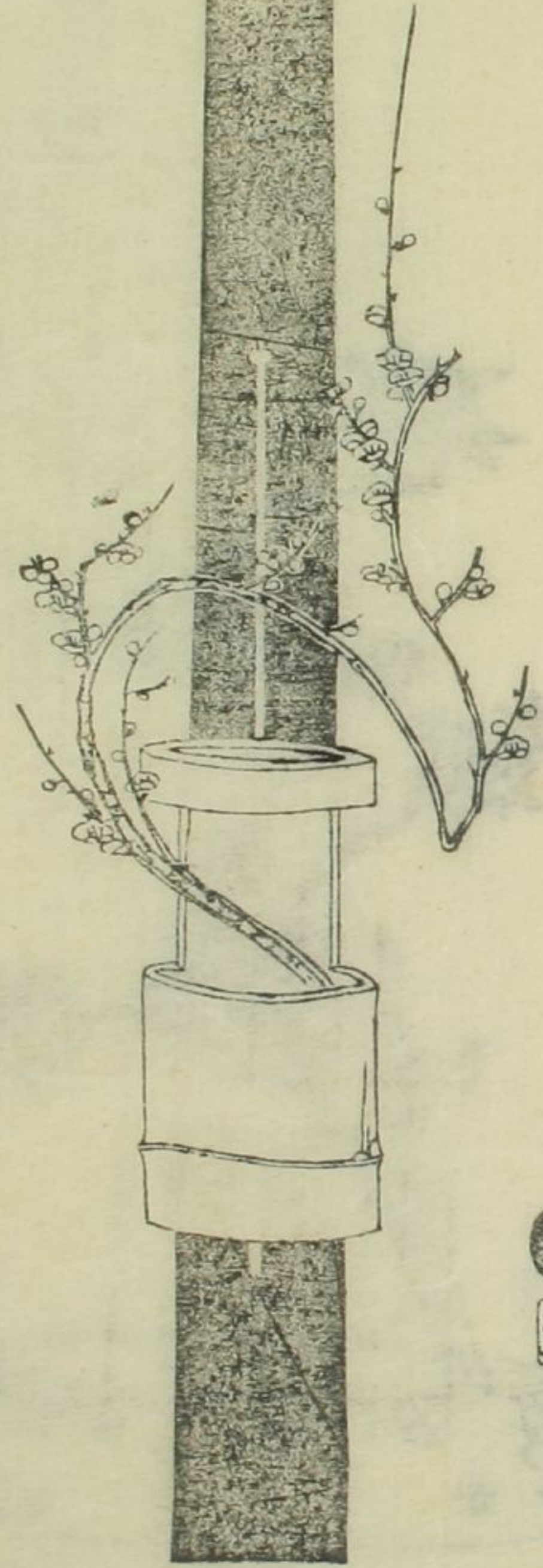


全

全  
丁  
六



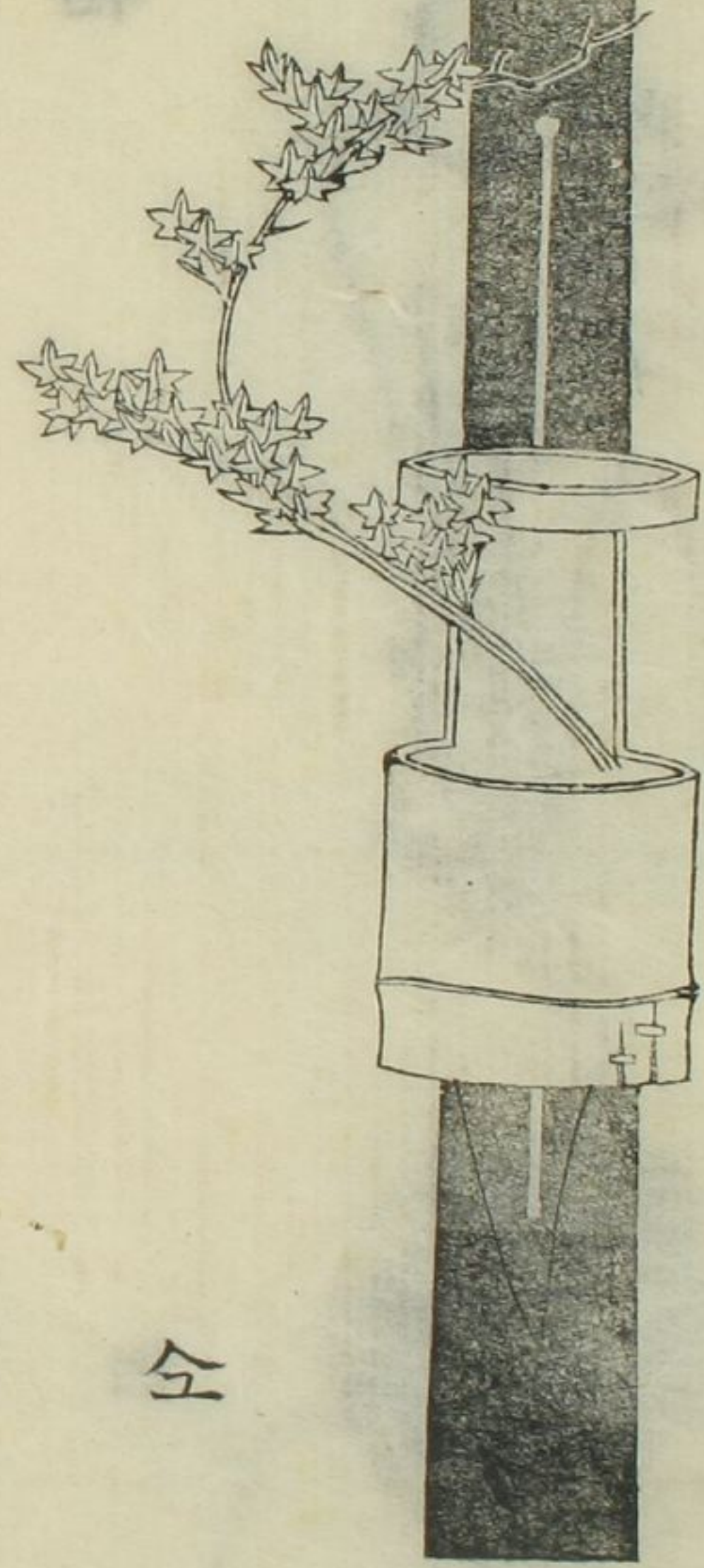
薄紅梅



西村梅影



もみち



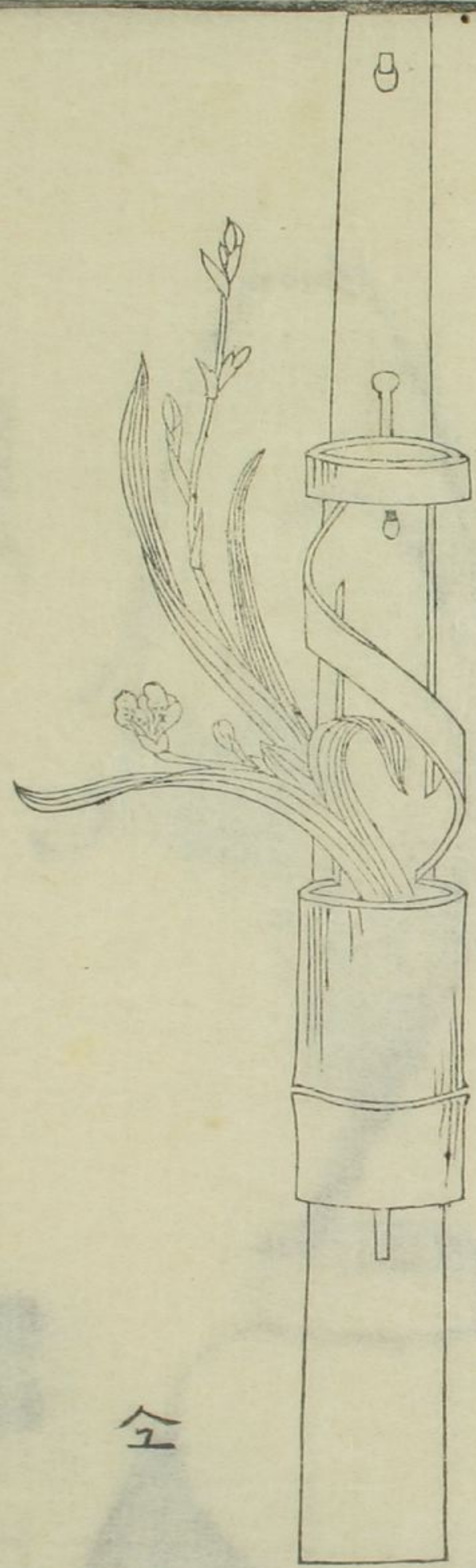
全



一  
年  
上  
三  
十



鳶尾



全



香木

香木



全





梧桐



汲月堂  
照波



芽柳  
をらん



全



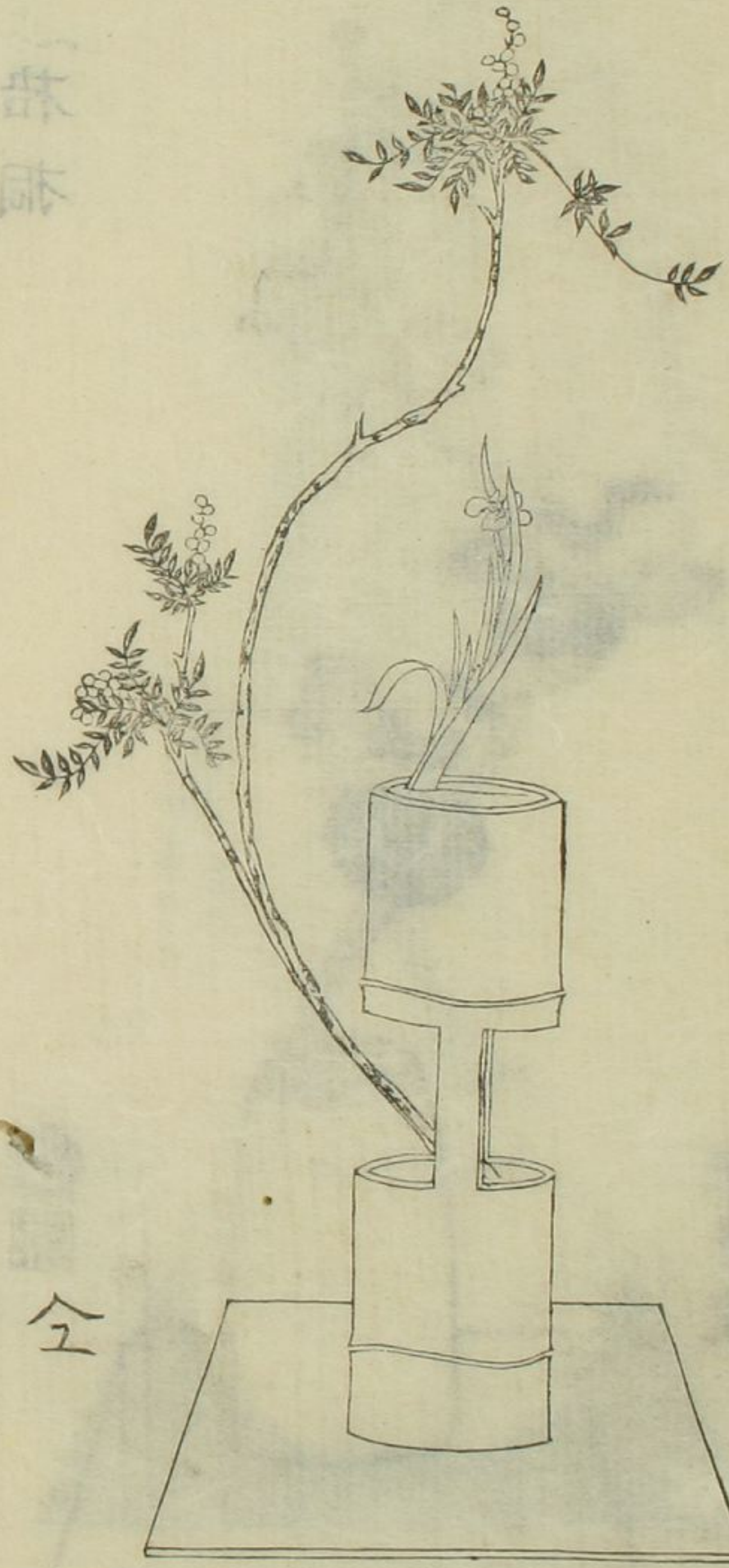


赤中菊



無波

南天



南天

かきつばた

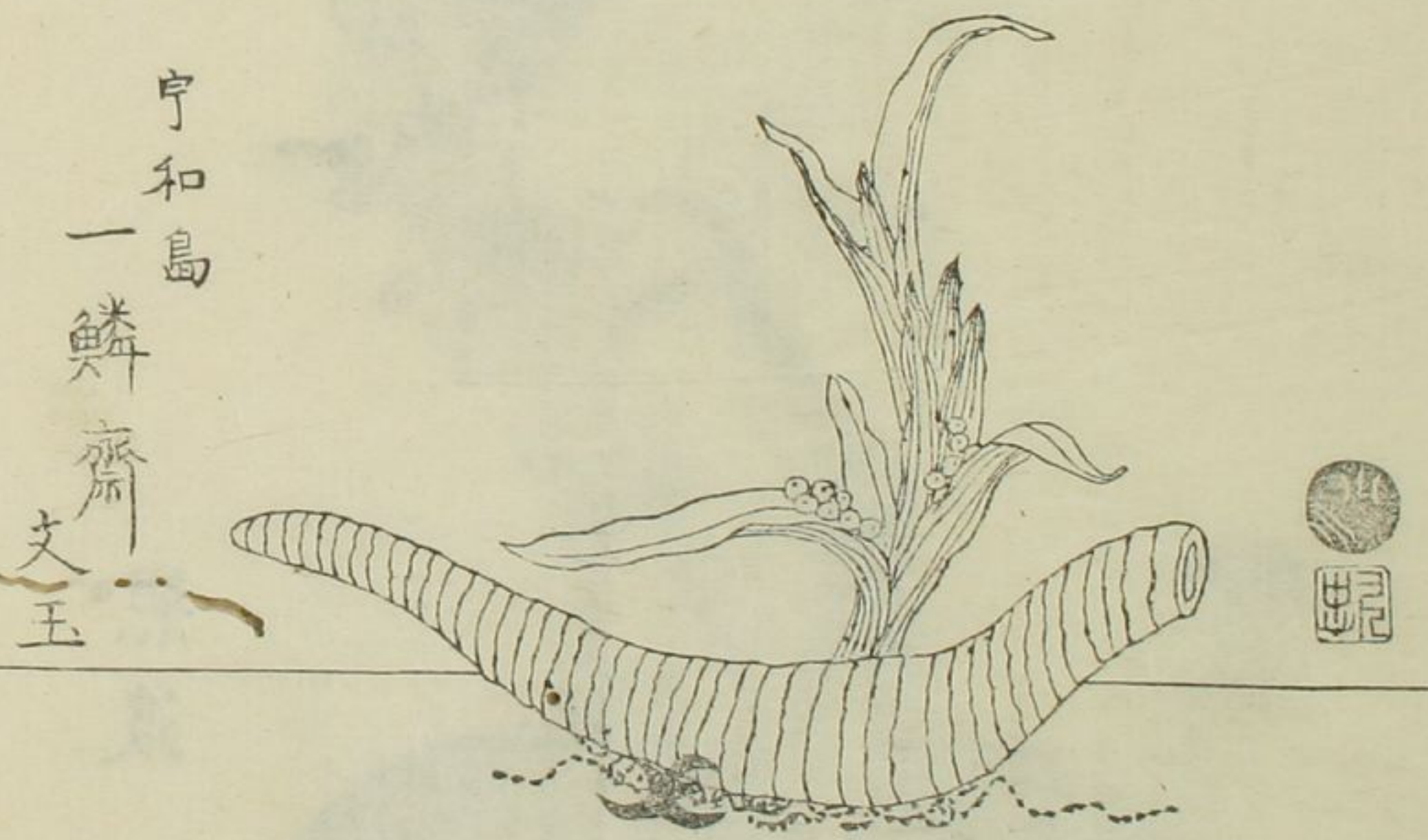
全







藜蘆二株



生上  
丁巳



長春茨



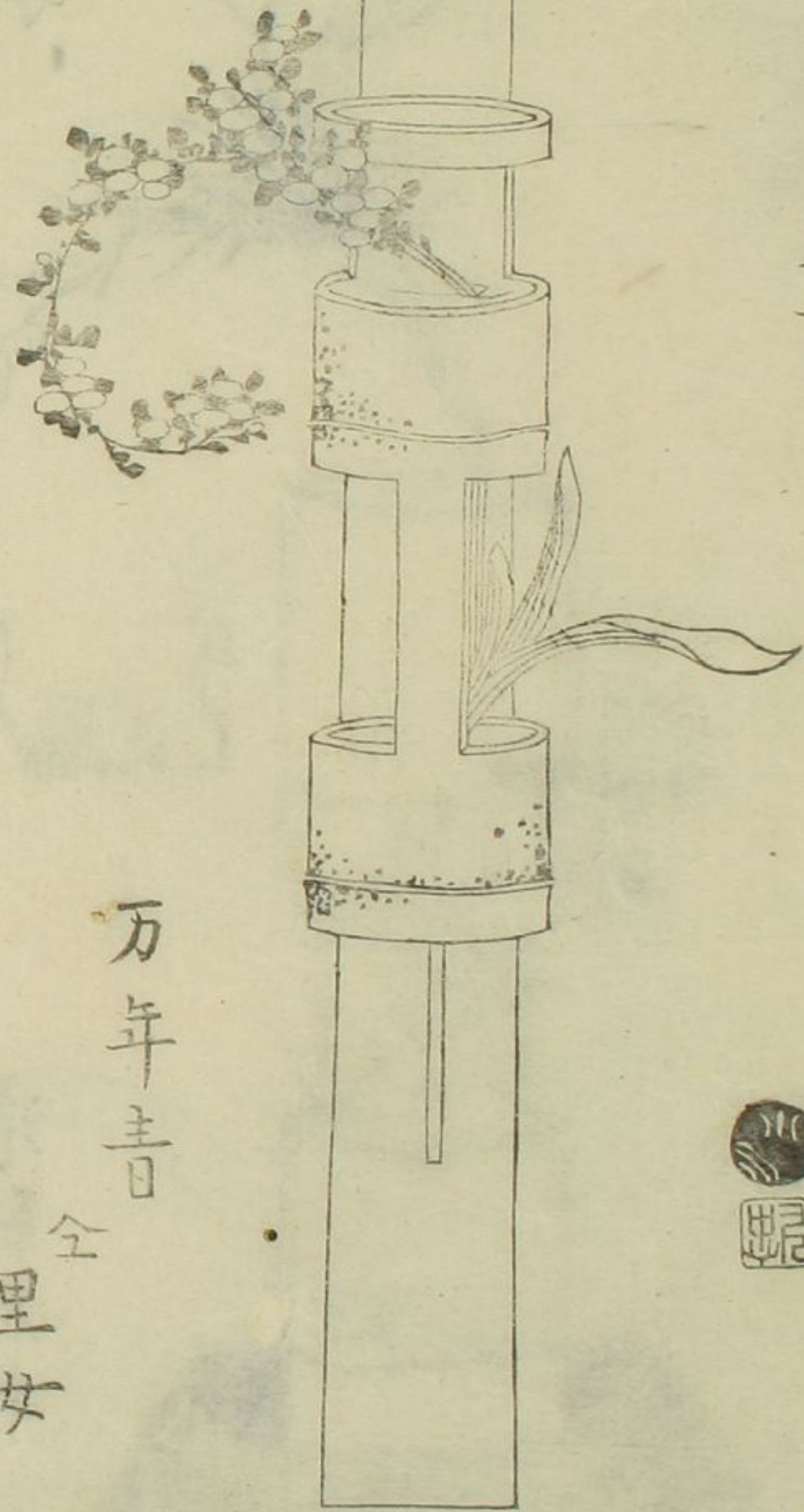
川曲  
巨海



8

黃小菊

松岡氏  
元女



万年青

全  
里女





二年竹

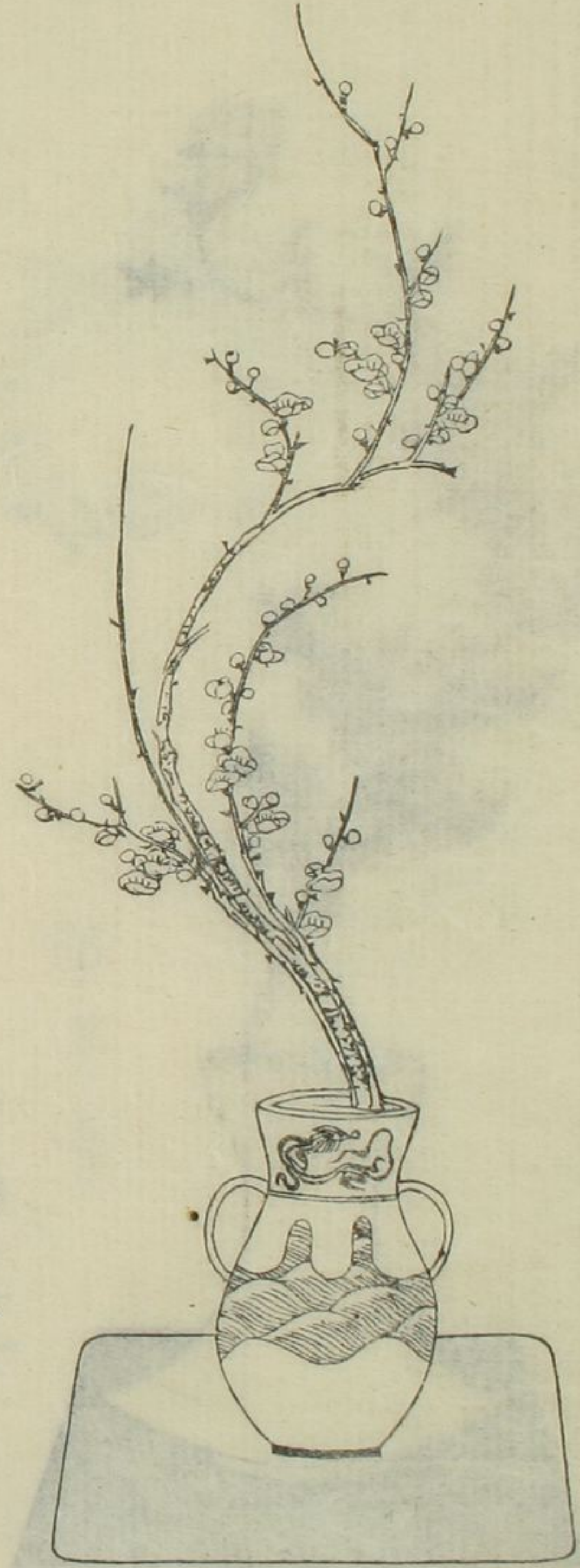


全



丹红梅

丹香花



全



丹香花



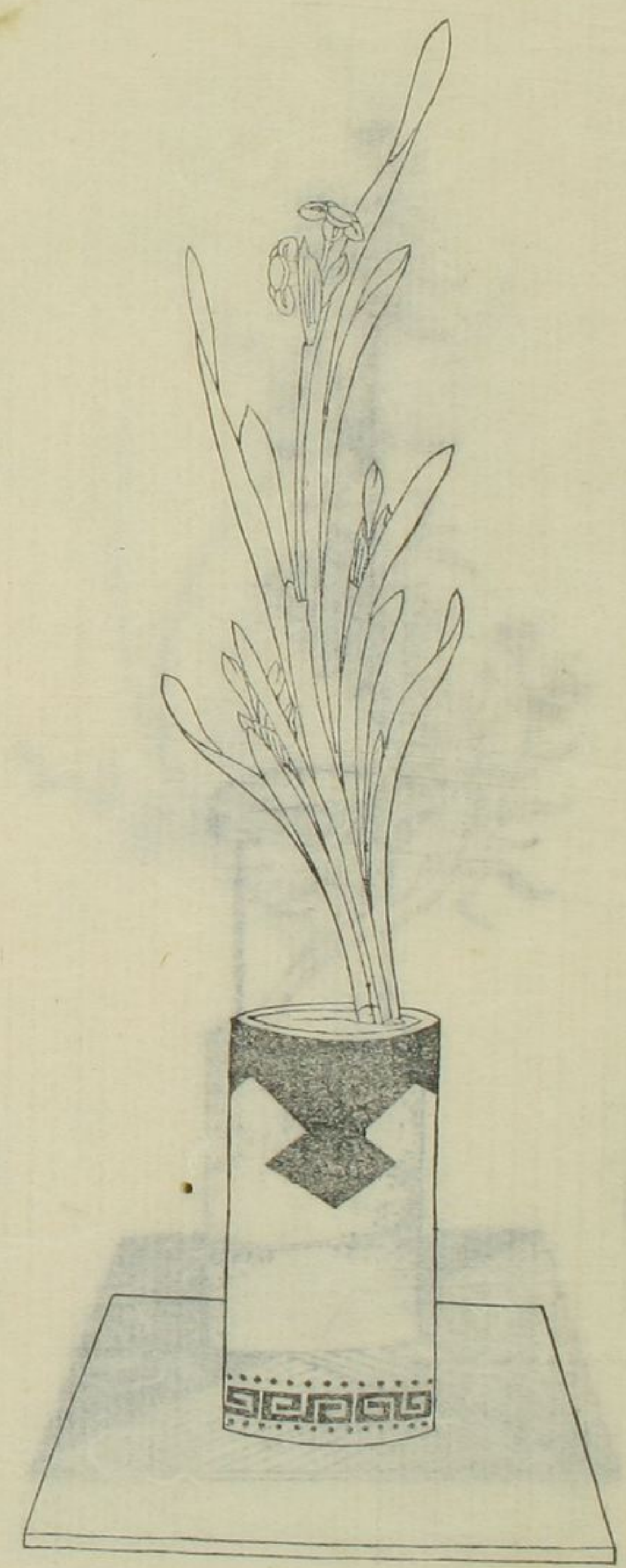


太宰  
美遊女

まんりやう

散東車伊

水仙



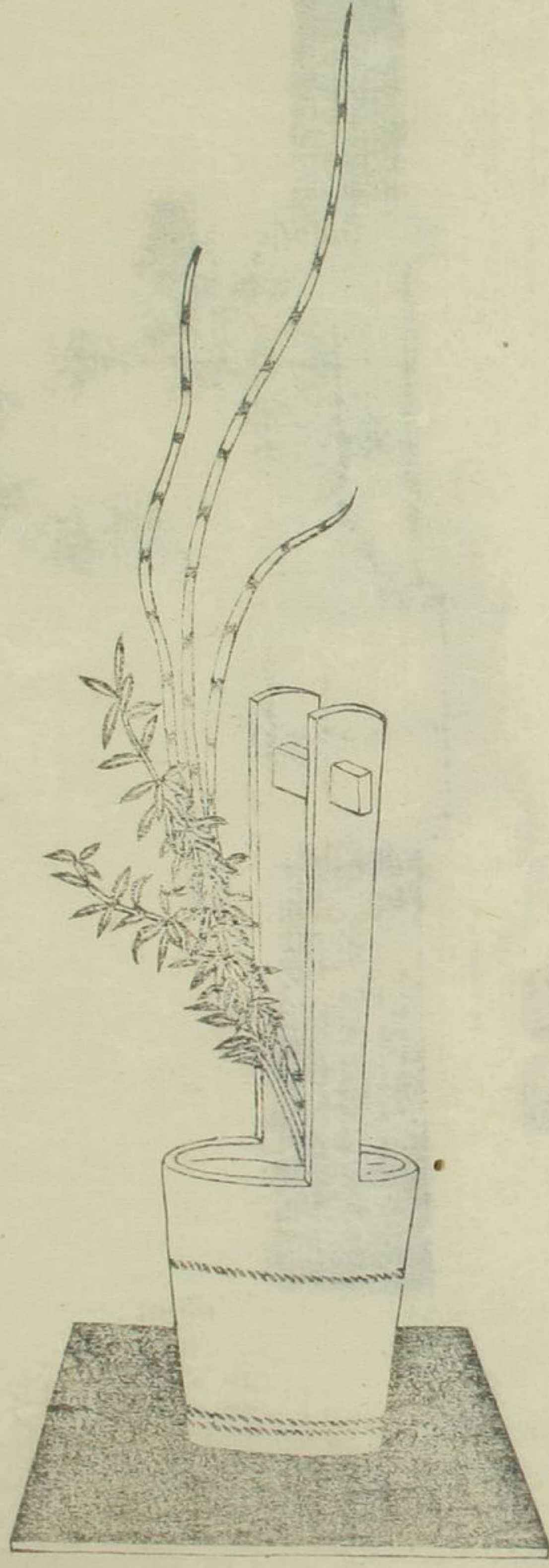
全

三三

三三



角木賊



清家車引

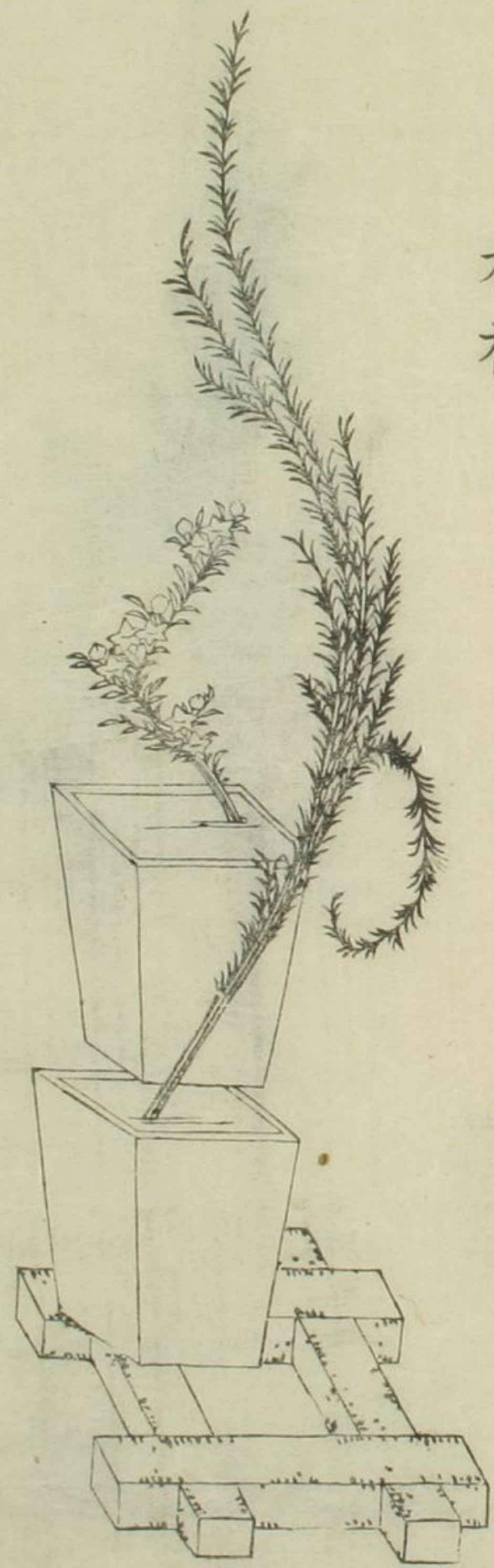


海棠花  
をらん

清家車引

三十八





免とと秋  
桔梗

毛利古量

白中菘



赤松里眼





山梨



吉野町  
渡邊 疎影



太藪

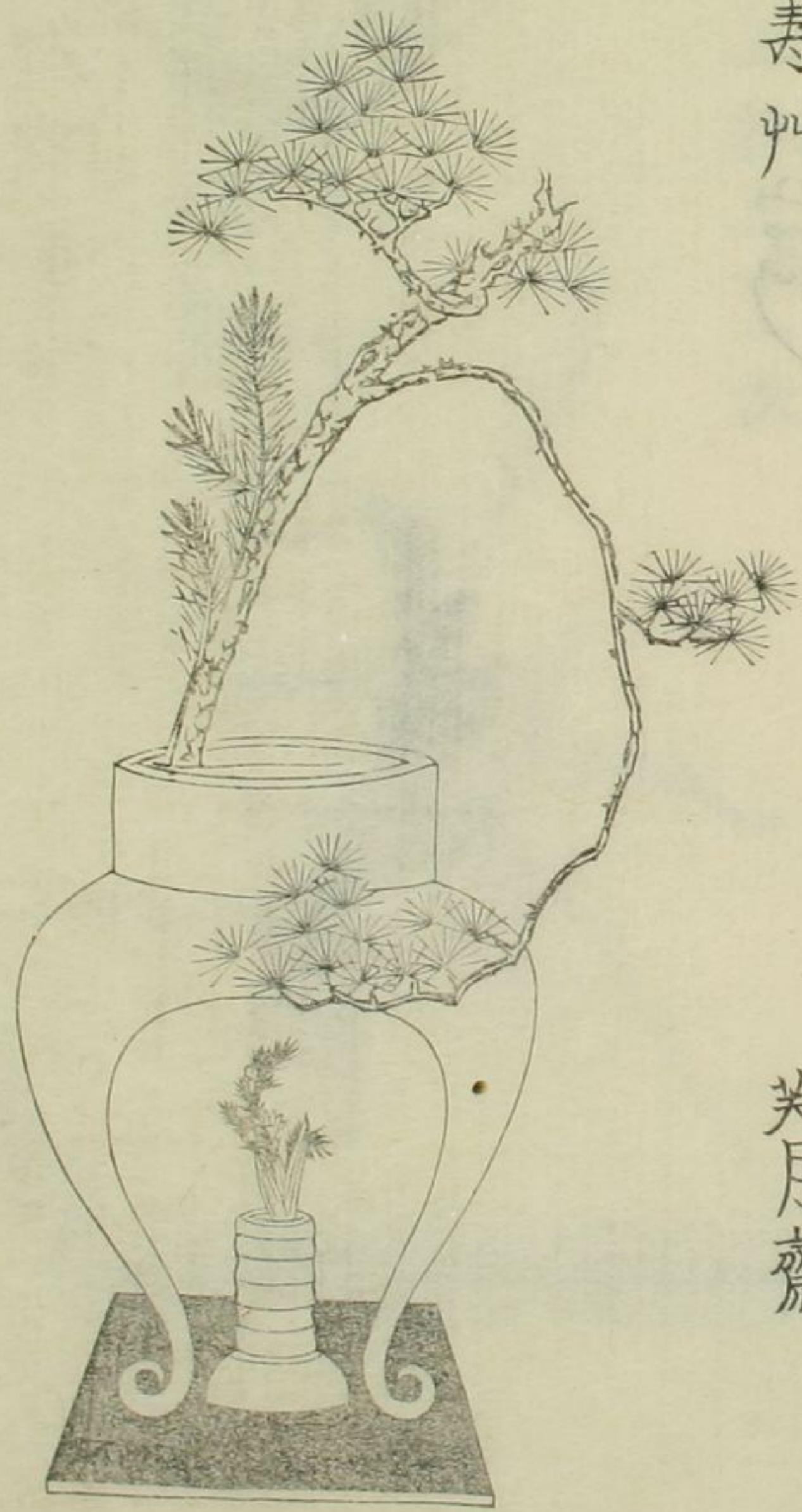
かきほろこ



毛利素鏡  
同氏女  
藤波



松  
福寿州



笑月齋

山  
松

平



全

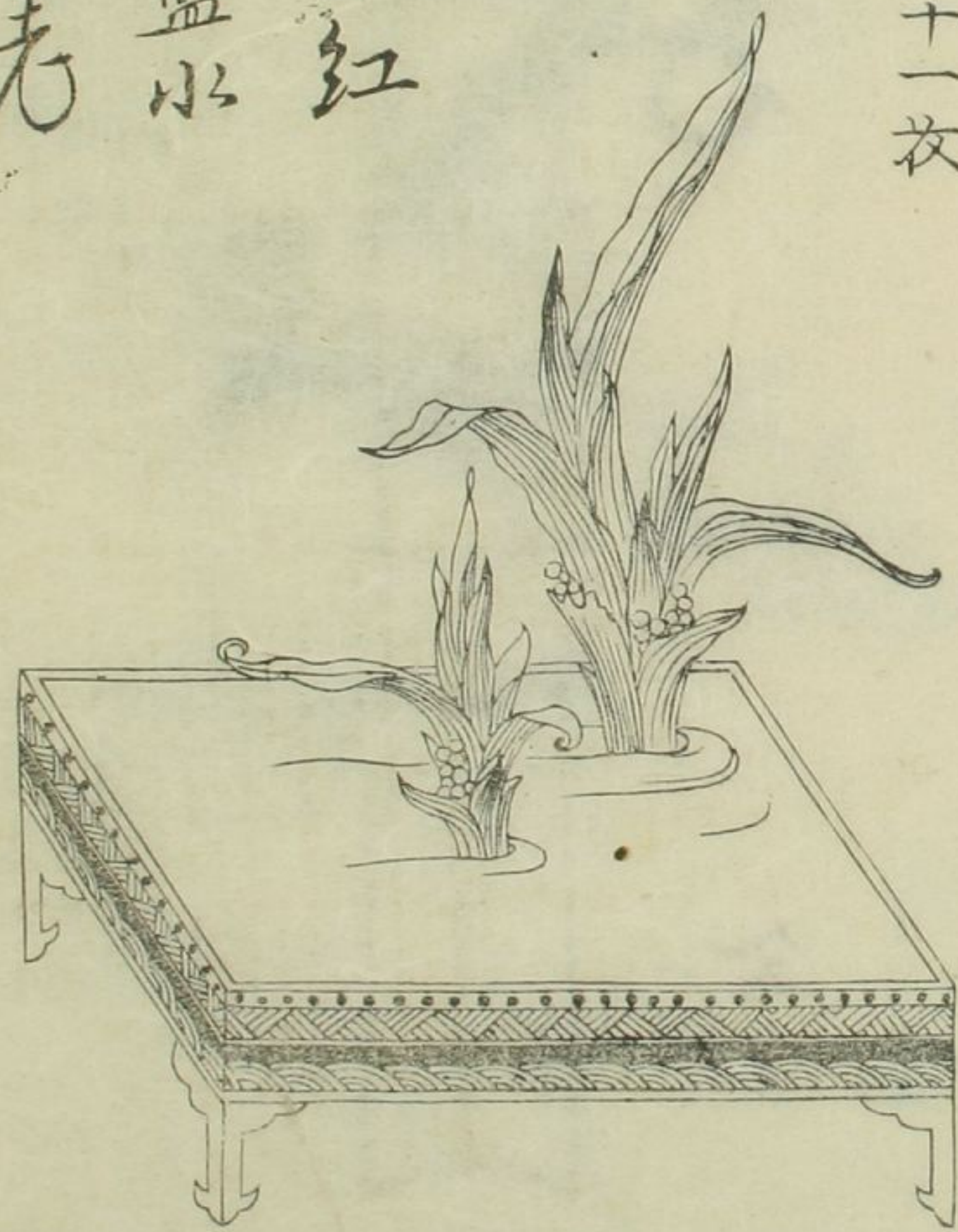
年  
上  
四  
十



藜蘆三株二十一枝

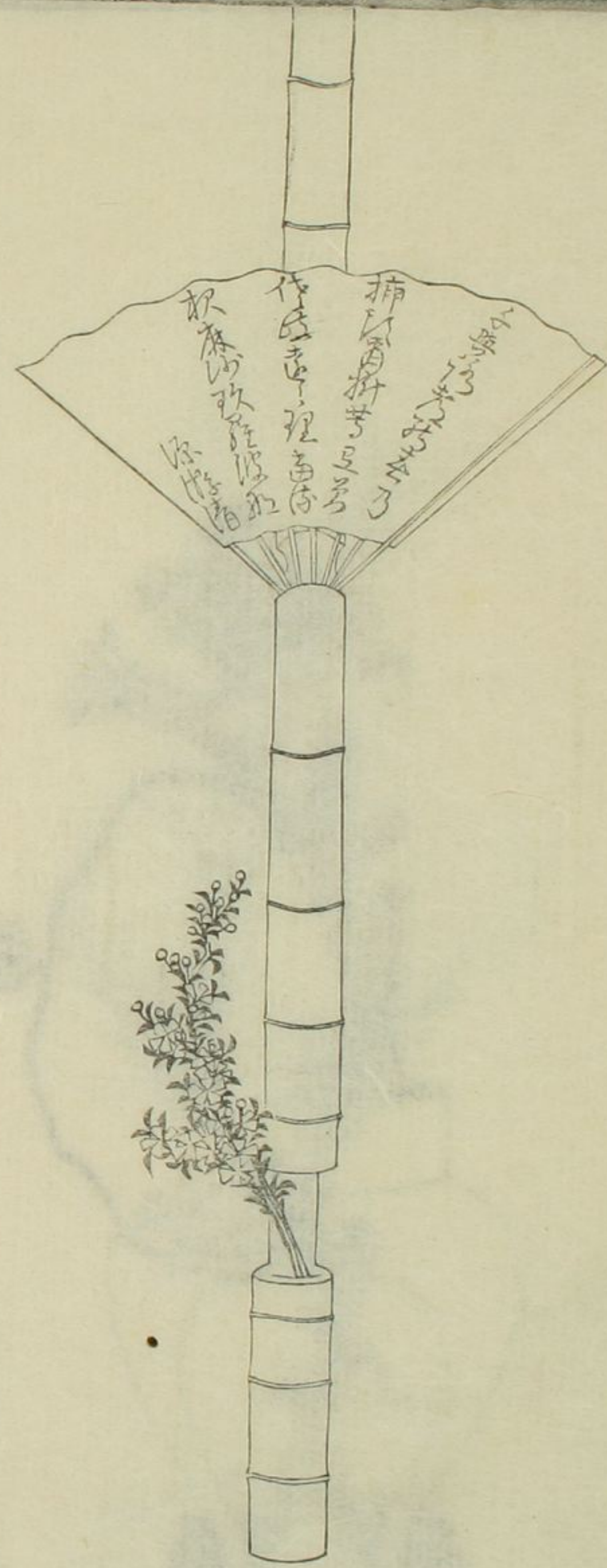
碧香琅玕紅  
含瑪瑙銅盤水  
寒不象花老

退筆錢



全

畫表軒山楫



美目廣

全

年止四二



白牡丹

白芍药

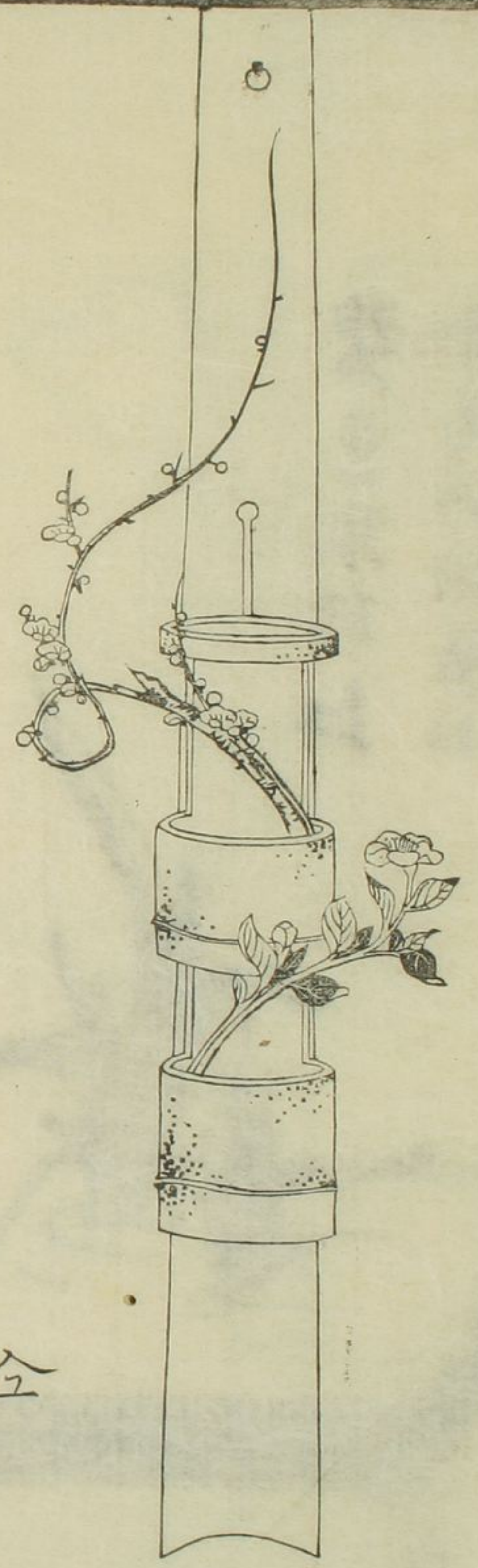
中北



全

红梅

白玉椿



全



河骨之石

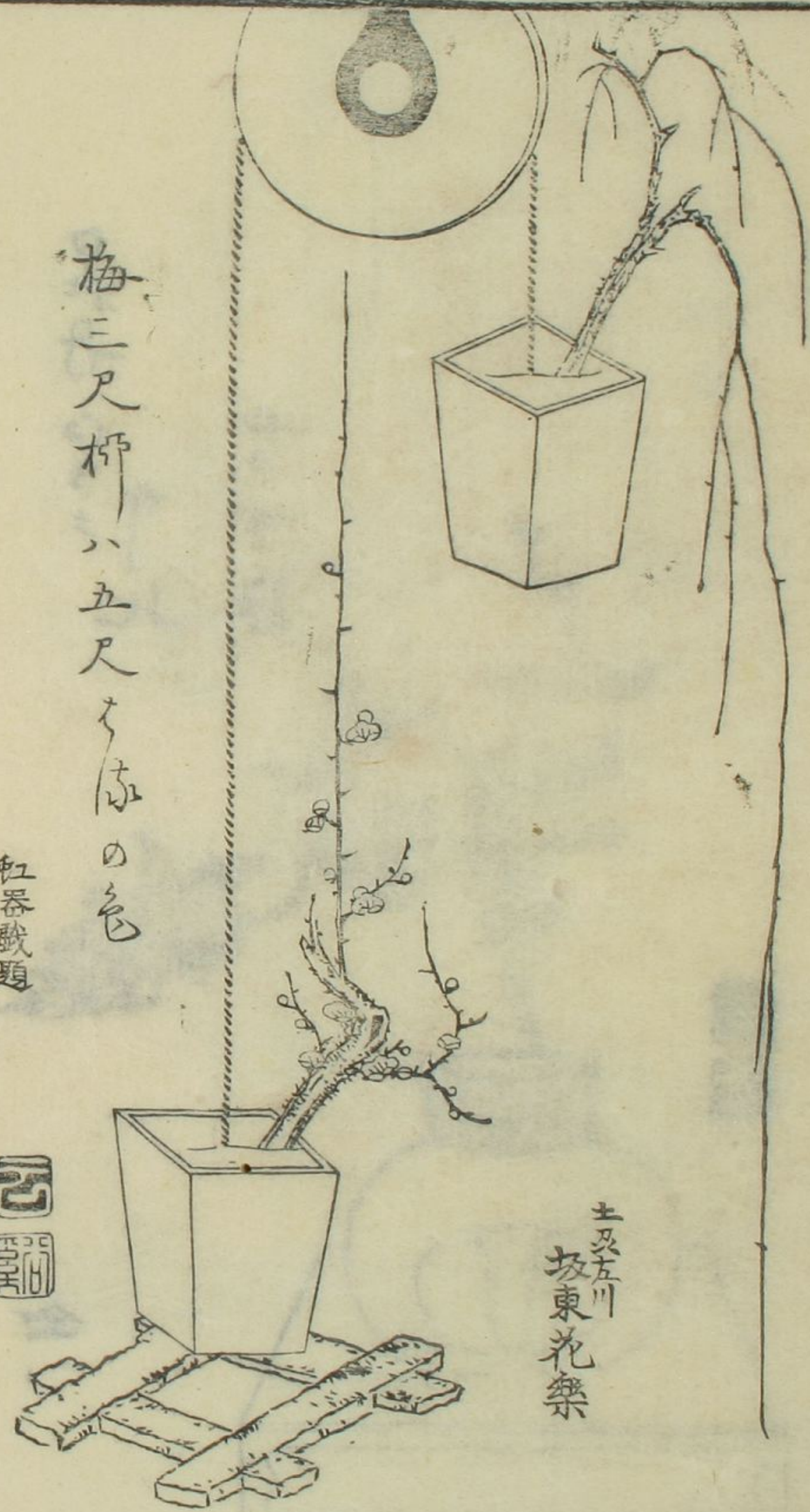


河骨曰尺三寸余りあるは此國の草  
其花はさくらさくらより里程は五里あり  
世に子孫傳ふ

滄浪亭

梅三尺柳ハ五尺々家の色

紅器殿題



土及五川  
坂東花祭

年上四四





馬蘭六十一枚

父今茲六十一子三十九文仍合百數  
祝禱之

此君亭  
我鳥



卷之六



馬蘭三十九枚

我今年三十九仍祝禱之

全

卷之六







黄中菊



全

太蘭

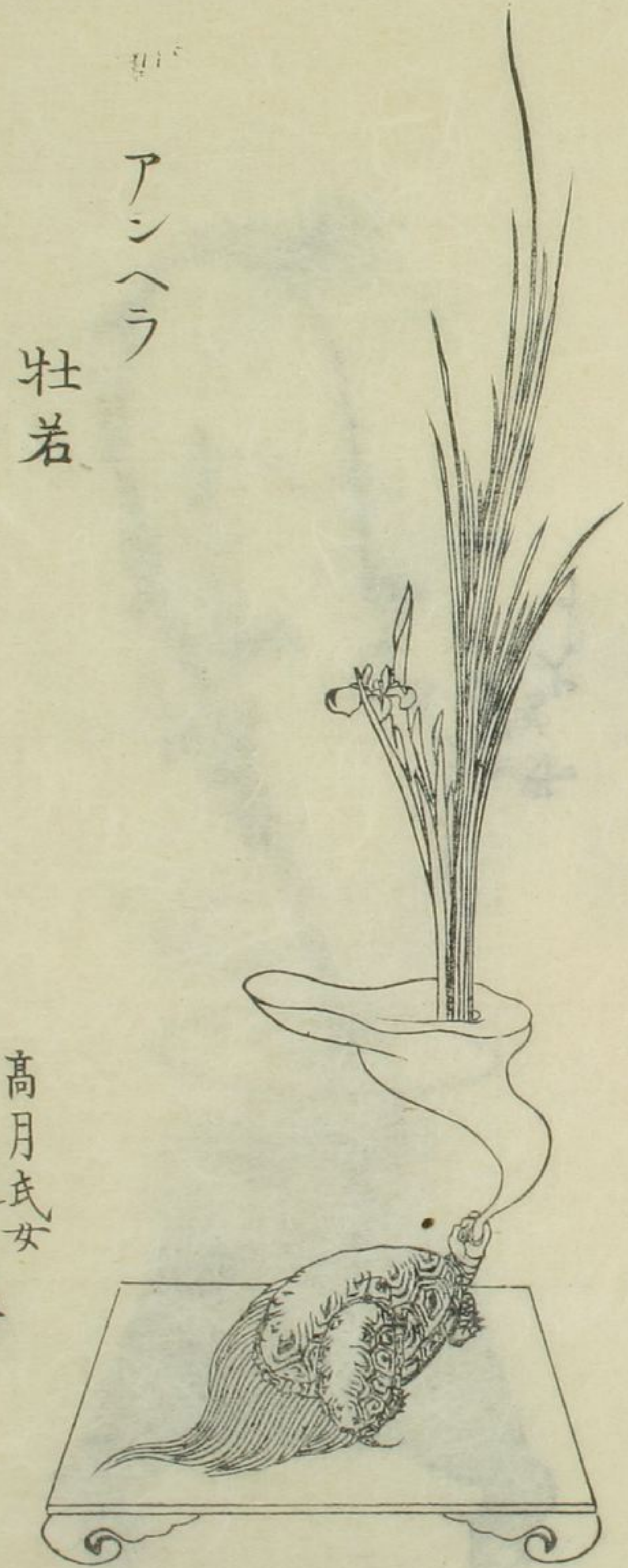
赤中きく



此君亭

白木





アンヘラ

牡若

高月氏女  
登銘



馬蘭十九枚

此君亭

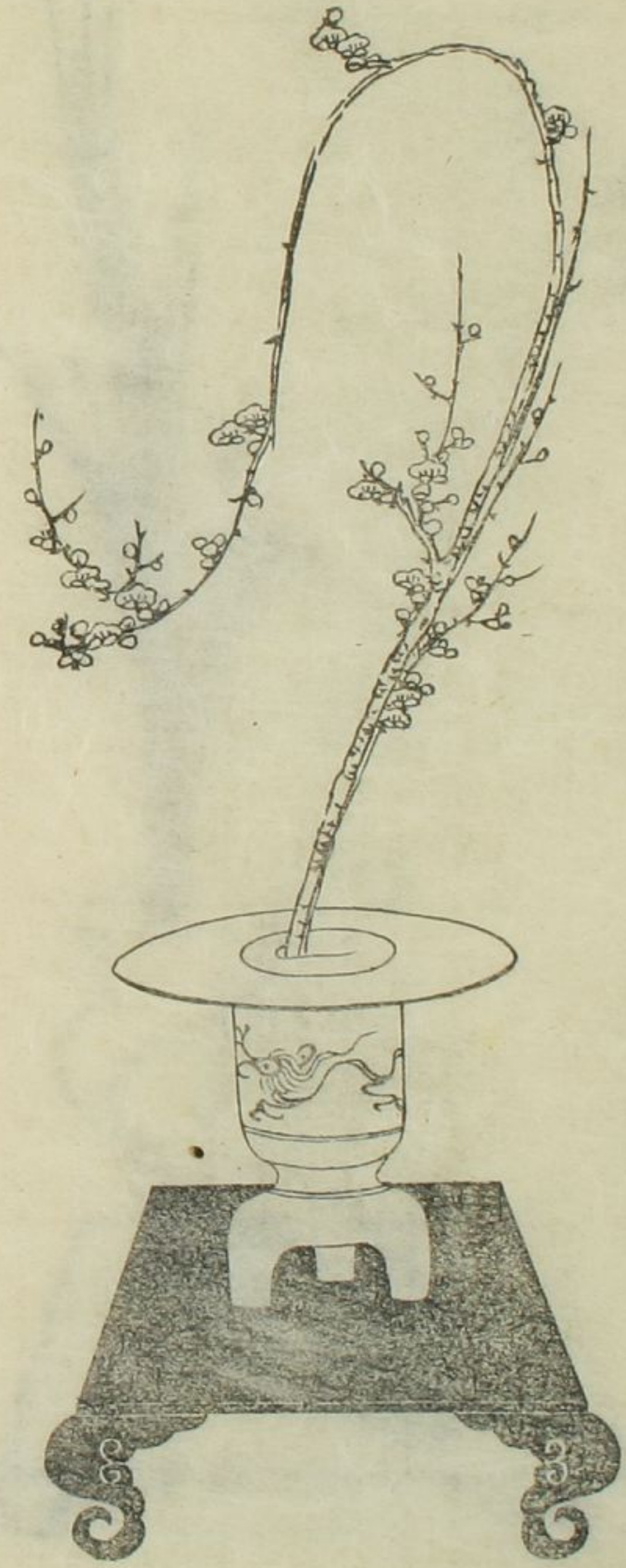


友  
青木



登  
銘

白  
梅



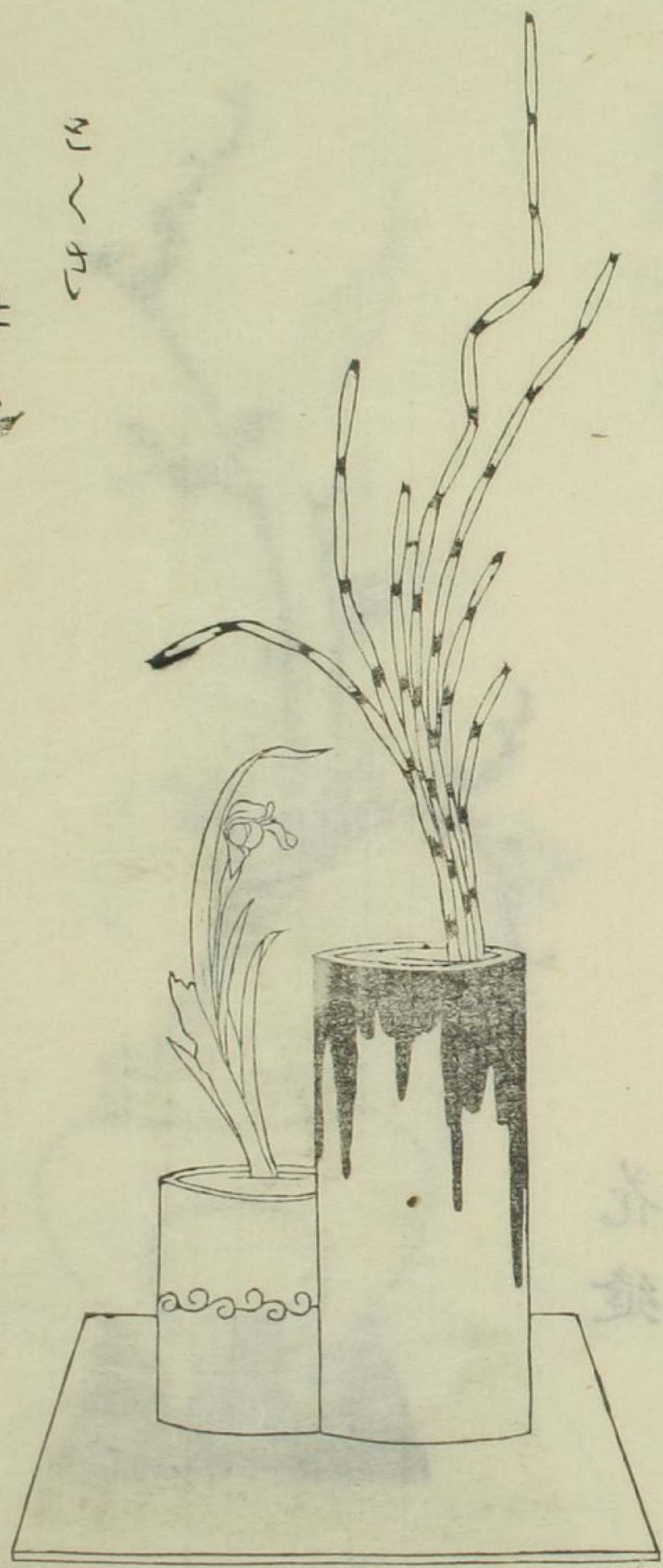
全

早

四  
六



三ノナ  
牡差



高月氏女  
花縫



鳳尾竹



全

本

五



馬蘭小きく



花縫



白毒



花縫



等上五





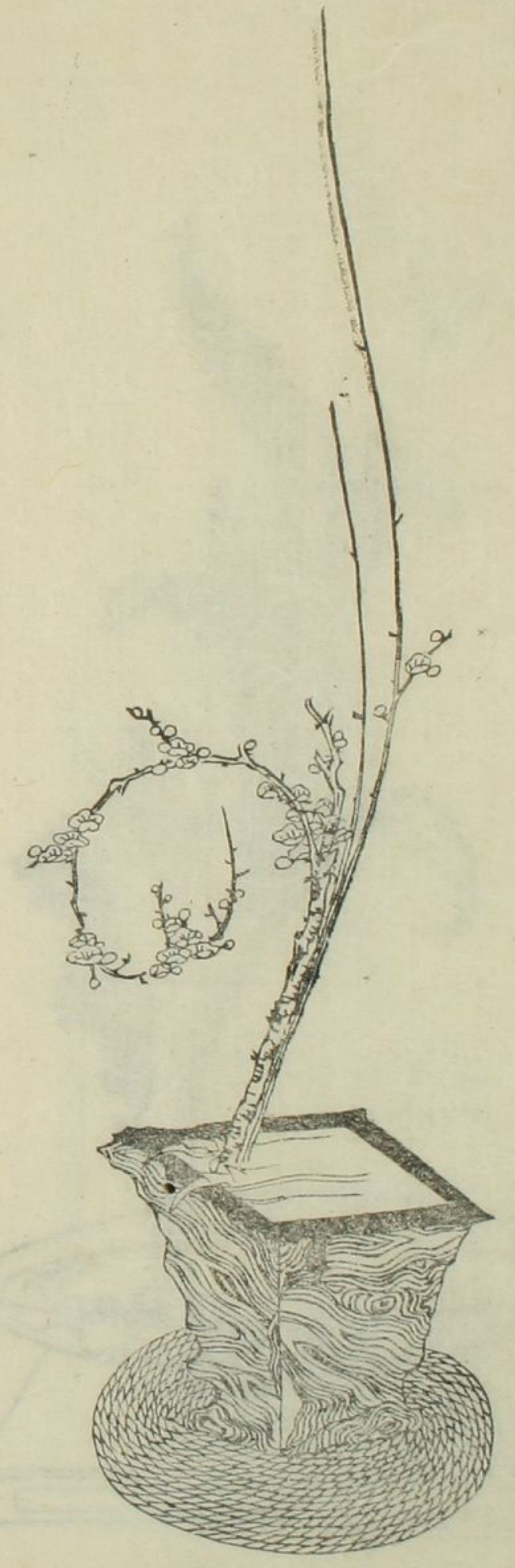
久留島侯

一週素猷

此翁愛之  
 梅弓法  
 翁有返香

平  
 七  
 十

梅



全

川  
 野

年  
 上  
 五  
 三



豊前の海明子第屋小杖をたてて、碇打らふ為なり  
 ちかかゝる種は口ふく人等々のかき見丸か、頁の書乞  
 出たり、二の年慶の控をむきたる所へ、とて、戯るゝ  
 自折。自折指ハきと折れ、こ。雪乃梅  
 不掃、踏打得しり、か。こ。言の誤  
 雪消人乞人來鳥、こ。啼。出る  
 餘儀ふくも、西儀、ちひ出る、自籬、か  
 鳴、ちひの咽、こ。時、也。井。の、畦  
 刻。下、座、中、ちひ、さ、き、母、乃、雛  
 夕、川、午、也。天、窓、を、か、り、の、り、房、り  
 也。一、え、又、こ、の、時、か、洗、ふ、清、水、う、ち、中  
 衣、人、子、供、仕、立、こ、こ。う、ち、ま、も、か

老らるゝ君、多にあり、益の去  
 千世の春松ハ、夢、り、も、あり、り、は、經  
 志賀乃、ある、枯、乃、不、去、ち、ま、り、り  
 世、去、も、た、た、り、門、乃、松  
紅巻先、春、恨、の、賀、の、曲、の、梅、の、折、は、甚、圖、を、勝、る、  
 春、折、日、也。披、頭、曲、也。幾、人、之、上  
 黄、鳥、も、さ、我、を、老、せ、り。竹、の、宿  
 ち、紀、人、能、出、浮、く。雪、あり、り、養  
 ち、依、梅、可、し。襟、の、ひ、や、つ、く、山、の、邊  
 夕、川、亦、月、似、合、ぬ、枝、を、か、り、中、李  
 湖、を、吹、き、こ、り、益、乃、松  
 世、法、中、の、ち、ふ、曲、は、こ、り、益、の、考、り

宇和島 五 月 曉 白 芽 五 橋  
 藝州本郡 其 葉 尾州 時 恭 豊后 其 雲 帯 人 焚 清 益 人 人 別



暮の氣はけりけり梅乃白きとる  
 ちり人もそ川花寒く麻足せり  
 月出く高くやうかり花乃山  
 梅の香に引くはく道もかりり  
 竹植る人や高き欲もあ  
 梅の香引けぬはく梅の赤い意哉  
 暮の竹やふもあき守 暮  
 月代の山結うさりり暮乃声  
 小雨一りり不圓出於多法後  
 竹植る打見の習る位居りか  
 寿天々ある物喰花乃鳥の子  
 白茅吹川くさの月夜々那

九州

桃 李 石 羽 素 霍 和 芝 玉 南 棠 五  
 秋 亭 泉 山 石 知 雪 岡 鳳 嶺 雨 末

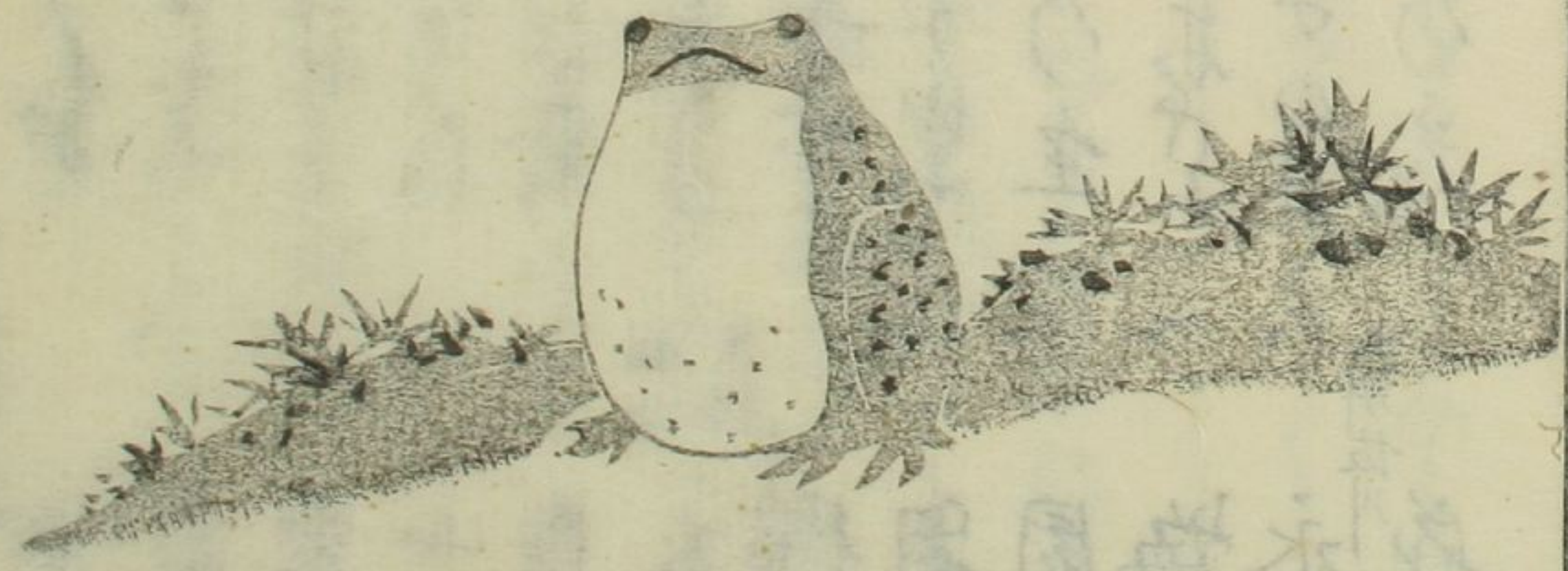
昔年さきあは

一と深き宗祇の歌

春

古月名唐草

静山



五二



露磨 有秀 浦安  
 千一 敬所 木彫  
 湖十 得器 松山  
 園女 梅器 東都  
 花友 永棧 平落  
 枝高 松乃 花

露磨 有秀 浦安  
 千一 敬所 木彫  
 湖十 得器 松山  
 園女 梅器 東都  
 花友 永棧 平落

山小柳... 己性... 水... 動... 情... なく... さ... 中...  
 静動... 其山の花... 今...  
 六十... 好士... 茶...  
 此... 静...  
 け... 世...  
 の... 静...  
 わ...

崔... 加... 圖... 鹿角







都らるる中をのぼるてむらんやふふり醒あ  
 耳一遠一因もうすりくし明乃春  
 朽きくふ小梅見出す一人  
 有修茶の葉を志風ふ乾し  
 たる箕乃そけをむす戸の口  
 名目の脊中へあるは推あくりり  
 つい一株とゆふ花 猿  
 人けふ鹿ふやりの善能ふ  
 神能前一の柱そら  
 けつふ反嵐乃やく海の際  
 たらひのひくふ赤きの茨系  
 けふ小梅葉のゆふり雨乃落

紅品  
 寄詞  
 豊郷  
 肥島原  
 六轡  
 宝鼎  
 東堤  
 方水  
 鳥石  
 何束

一夜くふりあらしなひ  
 白粉の多き人けり男生 鏡  
 鳥のそけいの中へ  
 西小の赤間ハ秋も片月  
 丹戸の自由をさる女侍人  
 年よりぬをとりは花乃け  
 誰もめくたきい奴ふく人ふ

下畧

ぬけさしけり男侍也 梅 林  
 宵くや目美催する竹乃庵  
 世の陽月さきあり梅の花  
 じよ此曆最一選ハ儘あり

其鳥  
 水川  
 水  
 東  
 馬後  
 春甫  
 桂四  
 羽力



皴のくまゝ紅ふさぎ中きり遊ぶ 雀  
竹ハ麻より清りけりさきん春の雪  
梅ハ香ハありけり人のハ梅 月

天の  
洞雨  
一  
瓢也

龜ハ脊ふまゝ遊ん 春  
鳥月紅器のり 暹磨の寿まき月のひきけりて

銀川

竹植ふり競り君よりひこり那  
梅自画賛

石鼎

浪美けり梅あり遊ぶ雀り  
六ツの花乃のちりり松志きり  
獲迷ふ山めり春り  
六つ明や竹えり居きハ百千鳥

今作七十三  
羽戴  
素梅  
其梅  
素明

父美月齋活花切西冬夏定あり  
耳順の春を遠く高きと遠き  
よりこぼれはきりけり物と年と  
一撃は門人と純く花のりけり繪  
かゝ世ふり人けりけり  
子代は種子親身りさきり花乃春  
老松や雀の子も子代くと呼  
竹もふ活きけり此君も春  
梅もや梅もあきけり花よりを  
ゆんきんに千代り暮の行儀か  
伐りも世乃中り梅もや梅実  
涼さハ浪ハさきり舟は月

此君亭  
鷺



十六夜や 猶毒 志のふ 園乃 ちり  
 短ふ あり 長ふ のる 人の 浪は 自  
 追ふ 虫 扇の 風ふ もり ちり 寸  
 田の 時や 桂馬に 飛く 我 誰  
 梅乃 實や 赤い 塊も ちり 寸  
 隣 ちり 太り しも ちり ちり 寸  
 蚊 吟 ちり ちり ちり ちり 寸  
 菽入の 馳 走 ちり ちり ちり 寸  
 君の 顔 見 ちり ちり ちり 寸  
 風ふ 肌 女も ちり 寸 ちり 寸  
 臨 夜 行 葉 ちり ちり ちり 寸  
 朝 日 ちり ちり ちり 寸



早稲田大学図書館

011688995010